

令和 6 年度版『小学社会 4』年間指導計画・評価計画（案）

広げてみよう、市から県へ みりよくがいっぱい！知りたいな、47 都道府県	配当時間 2 時間	教科書 4 p. 8～13
---	-----------	------------------

目 標

- 地図帳を活用し、我が国における自分たちの県（都、道、府）の地理的位置を捉えるとともに、各都道府県の位置や名称を調べ、47 都道府県により構成された日本の全体像を理解できるようにする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 47 都道府県の名称と位置について、地図帳などで確かめたり、日本の白地図などに書き表したりしている。 ・ 地図帳を活用して、都道府県の特産物や祭り、観光地などを調べ、その都道府県の位置や名称を捉えている。		

広げてみよう、市から県へ／みりよくがいっぱい！知りたいな、47 都道府県 【配当 2 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
（発）＝発言・発表、（行）＝行動観察、（ノ）＝ノート・作品、（テ）＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
p.8～11 【配時 1】	地図帳を使って、自分たちの県の地理的位置を捉えたり、47 都道府県の名称と位置を調べたりする。	○地図帳を使って自分たちの県の位置、47 都道府県の名称と位置を調べ、各都道府県の位置関係を方位を使って言い表したり、他の都道府県について知っていることや地図帳などで調べてわかったことを話し合ったり、発表したりする。 ◆日本は 47 の都道府県からなること。各都道府県の名称と位置、自分たちの県や隣接県の地理的位置や名称。	①行ったことがあったり、知っていたりする都道府県を発表し、その都道府県の位置を地図帳で確かめる。 ②地図帳を見ながら、自分たちの都道府県の地理的位置を様々な表現で言い表す。 ③地図帳を活用して、特産物や祭り、観光地など各都道府県の情報を収集しながら、都道府県の名称や位置を捉える。	【知技】地図帳を使って、自分たちの県の地理的位置や他の都道府県との位置関係を捉えたり、各都道府県の特産物や祭り、観光地などを捉えたりしている。（発）（ノ）
p.12～13 【配時 1】	地図帳を活用して、クイズの問題を作成したり、クイズ大会を行ったりして、47 都道府県の名称と位置を捉える。	○都道府県のクイズ大会を開くために、地図帳を活用してクイズを作成し、47 都道府県の位置と名称を捉える。 ◆各都道府県には様々な特色があり、それらを調べるために地図帳が活用できること。	①地図帳などを活用して、クイズカードを作成する。 ②班に分かれて、都道府県のクイズ大会を開く。 ③クイズのカードづくりをふり返り、地図帳の使い方や生かし方について話し合う。	【知技】地図帳を活用して、都道府県の特産物や祭り、観光地などを調べ、その都道府県の位置や名称を捉えている。（発）（ノ） 【態】都道府県について調べたことをもとに、主体的にクイズ大会に取り組んでいる。（発）（ノ）

大単元 1	県の地図を広げて	配当時間 7 時間	教科書 4 p. 14～27
-------	----------	-----------	-------------------

目 標

- 自分たちの都道府県の地理的概要について、調査活動、地図帳や各種の資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 自分たちの県の地理的環境の特色について、文章で記述したり、資料などを用いて説明したり話し合ったりする力を養う。
- 自分たちの都道府県の地理的概要について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分たちの都道府県の地理的環境の概要を理解している。 ・自分たちの県の様子について、地図や各種の資料で調べ、白地図などにまとめている。	・我が国における自分たちの都道府県の位置、都道府県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、都道府県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現している。	・都道府県の様子について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

大単元の構成

県の地図を広げて ⑦
オリエンテーション ①
県の地図を見てみよう ①
県の土地の使われ方 ①
農業や漁業がさかんな地域 ①
工業がさかんな地域 ①
県の交通の様子 ①
まとめる 県の様子について調べたことを整理しよう ①

○の中の数字は、配当時数

大単元名：1 県の地図を広げて 【配当7時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
オリエンテーション p.14～15 【配時1】	自分たちの県の地理的概要に着目して、県の地形や産業、交通の様子について調べるための学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○地図帳を見て、自分たちの県の位置について様々な表現で言い表したり、県の様子について知りたいことや疑問に思ったことを話し合ったりして、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆県の地形や産業、交通の様子を調べるための学習問題をつくり、学習の見通しを立てること。	①地図帳を見ながら、自分たちの県の地理的位置について言い表す。 ②自分たちの県の様子について知りたいことを出し合う。 ③県の様子について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】自分たちの県の地図を見て思ったことや気づいたことを発表し、それらをもとに問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】自分たちの県の概要について調べたいことを話し合い、見通しをもって主体的に問いを追究しようとしている。(発)(行)
学習問題：わたしたちの住んでいる県の地形、産業や交通は、どのような様子なのだろう。				
県の地図を見てみよう p.16～17 【配時1】	自分たちの県の平野や山地、河川や市町村の位置に着目して、県の地形の大まかな様子を捉える。	○地図を使って、県の地形や土地の様子を等高線から読み取り、県の地勢の概要について調べる。 ◆自分たちの県の地形の様子、主な市町村、山地、河川の名称と位置。	①地図を見ながら、県の土地の様子について気づいたことを話し合う。 ②土地の高さを等高線で読み取る。 ③県の形について、地図から読み取ったことを話し合う。	【知技】地図帳や衛星写真、地形図を使って、自分たちの県の地形の様子について調べている。(発)(ノ)
県の土地の使われ方 p.18～19 【配時1】	県の土地利用と地形に着目して、県の土地利用の特色を読み取ったり、土地利用と地形とを関係づけてどのようなことがいえるか考えたりする。	○土地利用図を活用して、自分たちの県の土地の使われ方を地形と関係づけて読み取り、わかったことをノートにまとめる。 ◆自分たちの県の土地利用は、地形の様子と関わりがあること。	①県のどこの土地が、どのようなことに使われているのかを話し合う。 ②県の土地の使われ方について、気づいたことを話し合う。 ③県の土地の使われ方を、地形と関係づけて考える。	【知技】土地利用図と地形図を使って、自分たちの県の土地利用と地形とを関係づけて読み取っている。(発)(ノ)
農業や漁業がさかんな地域 p.20～21 【配時1】	自分たちの県の主な農産物や海産物とその産地、産地の分布に着目して、県内のどこで農業、漁業が盛んなかを調べる。	○地図や写真、グラフなどを使って、自分たちの県の主な農産物や海産物と、それらの主な産地を調べ、わかったことをノートにまとめる。 ◆自分たちの県の主な農産物や海産物と、県内の農業や漁業が盛んな地域。県内でとれる農産物や海産物は様々あり、場所によってとれる物に違いがあること。	①県のどこで、どのような農産物がつくられているのか調べる。 ②県でつくられている、主な農産物を調べる。 ③県のどこの海で、どのような海産物がとれるかを調べる。	【知技】自分たちの県の主な農産物、海産物とその産地を示した地図や主な農産物の生産量のグラフを読み取っている。(発)(ノ)
工業がさかんな地域 p.22～23 【配時1】	自分たちの県で工業が盛んな地域に着目して、その分布や生産される主な工業製品を調べたり、その地域で工業が盛んな理由を調べたりする。	○地図や写真、グラフなどを使って、自分たちの県の主な工業製品と工業が盛んな地域やその分布について調べ、わかったことをノートにまとめる。 ◆自分たちの県には工業が盛んな地域と、生産される主な工業製品があること。また、県内で特に工業が盛んな地域は、盛んになるための条件に合っていること。	①県でつくられた工業製品の市や町ごとの出荷額を調べる。 ②北九州市で、特に工業が盛んになった理由を調べる。 ③県で工業が盛んな市や町では、どのような工業製品がつくられているのかを調べる。	【知技】自分たちの県で工業が盛んな地域とその分布を地図で読み取ったり、市町村ごとの工業製品出荷額をグラフで読み取ったりしている。(発)(ノ)

県の交通の様子 p.24～25 【配時1】	自分たちの県の主な交通とその広がりに着目して、県内の交通がどこを通過して、どのように広がっているかについて考える。	○地図や写真を使って、県内の主な交通の様子や空港・港の位置などを調べ、交通の広がり方を読み取ったり、その広がり方の理由について考えたりする。 ◆交通は、県内の各市町村を結びながら、他の都道府県や外国とつながっており、この結びつきが県内の人や物の行き来を支えていること。	①県の道路や鉄道の広がり、空港や港の位置を地図で調べる。 ②交通は、県内のどこを、どのように結んでいるのかを読み取る。 ③県の交通の広がり方を、県の地形と関係づけて考える。	【知技】県の交通がどこをどのように通っているのかを地図から読み取っている。(発)(ノ)
<まとめる> 県の様子について調べたことを整理しよう p.26～27 【配時1】	県の地形や産業、交通について調べたことを白地図などに書き込みながらふり返し、学習問題について考える。	○県の地形や産業、交通の様子についてわかったことを白地図に表現したり、白地図に書き込んだものを見ながら、県の様子を表などに整理したりする。 ◆自分たちの県の地形、土地利用、主な産業、交通の広がりなどの県の地理的概要。	①県の様子について、調べてわかったことを話し合う。 ②話し合ったことを県の白地図に表す。 ③地形、産業、交通などの項目に分けた表を作り、県の白地図を見ながら分かったことを表に書き入れる。	【思判表】県の地形や土地利用、産業、交通について調べたことを表や白地図などにまとめている。(発)(テ) 【態】学習問題を確かめ、調べてきたことをもとに県の概要について主体的に表現している。(発)(ノ)

大単元 2	健康なくらしとまちづくり	配当時間 29 時間	教科書 4 P28～79
-------	--------------	------------	-----------------

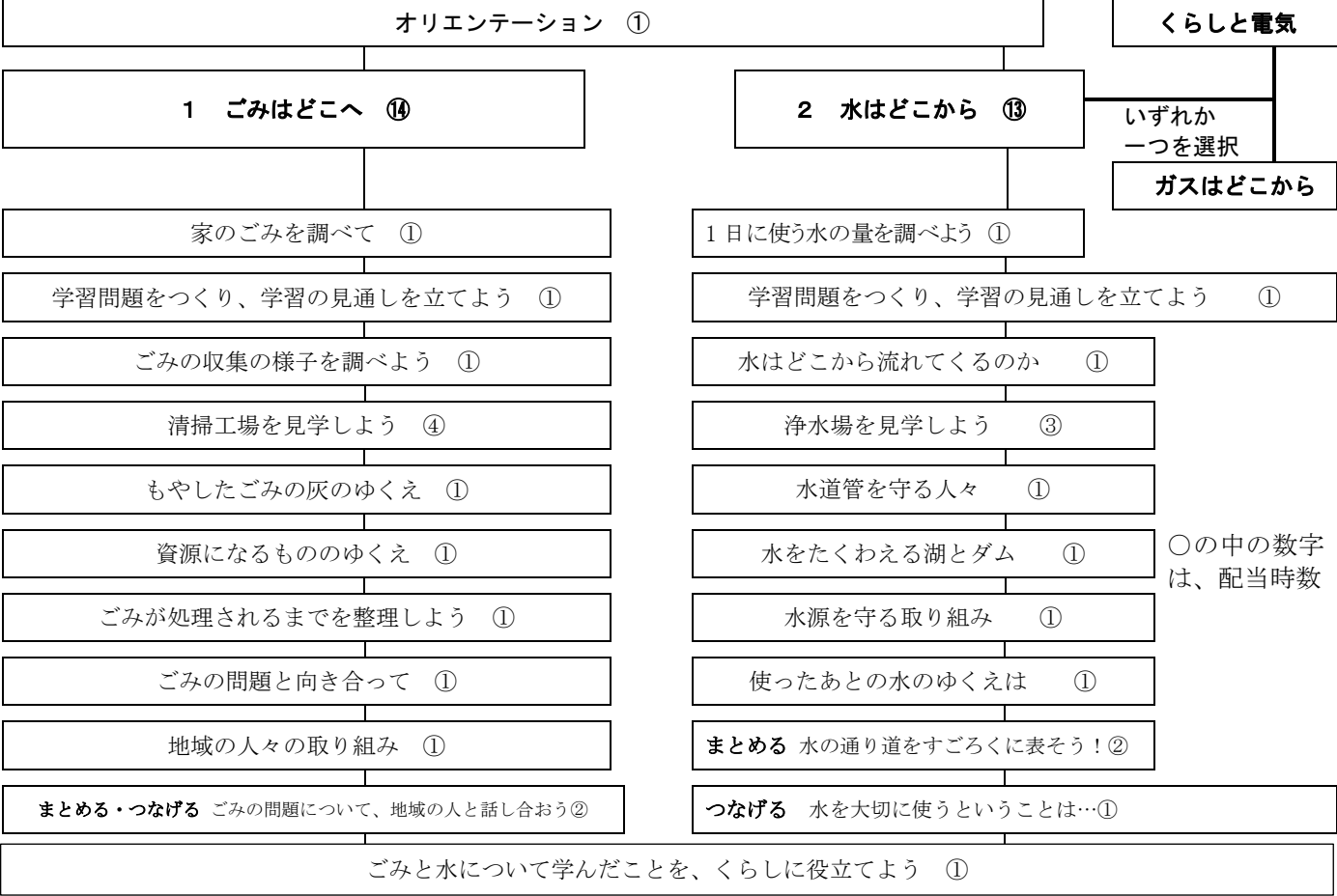
目 標

- 人々の健康と生活環境を支える働きについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
●人々の健康と生活環境を支える働きについて、相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたこと
- や選択・判断したことを表現する力を養う。
●人々の健康と生活環境を支える働きについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 ・飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。 ・人々の健康や生活環境を支える事業について、関連施設や事業所を見学したり、地図や資料などで調べたりして、まとめている。	・処理の仕組みや再利用、地域を越えた人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現している。 ・供給の仕組みや経路、地域を越えた人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現している。	・人々の健康や生活環境を支える事業について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。 ・地域の人々の健康と生活環境を支える働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

大単元の構成



小単元 1	ごみはどこへ	配当時間 14 時間	教科書 4 p. 30～49
-------	--------	------------	-------------------

目 標

- ごみを処理する仕組みについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ごみを処理する仕組みや処理に協力する人々の取り組みについて、それらが果たす役割を考え、ごみ処理に見られる課題を把握して、その課題の解決に向けて社会への関わり方を
選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- ごみの処理について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 ・ごみを処理する仕組みやその再利用、地域を越えた人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめている。	・ごみを処理するための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現している。	・学習したことをもとに、ごみを減らすために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、自らもごみの適切な処理や再利用に協力しようとしている。 ・ごみの処理について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

大単元名：2 健康なくらしとまちづくり 【配当 29 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
オリエンテーション p.28～29 【配時1】	身の回りのごみに着目して、生活の様々な場面・場所で多くの種類のごみが出されていることを捉える。	○学校生活では、どこでどのような種類のごみが、どれくらいの量出されるのかについて調べ、身の回りでごみを出ることに着目する。 ◆学校生活をはじめ、日常生活の様々な場面でごみが出ていること。	①学校内のどこにどのようなごみが出ているかを調べる。 ②調べて分かったことを話し合う。 ③話し合ったことをもとに、自分の家のごみについて調べる計画を立てる。	【知技】学校内で出るごみの種類や量、処理の仕方を調べ、学校生活では様々な場所で、多くの種類のごみが出ていることを捉えている。(発)(行)

小単元名：1 ごみはどこへ 【配当 14 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
家のごみを調べて p.30～31 【配時1】	家から出るごみに着目して、家からは様々な種類・量のごみが出ていることや、ごみの収集にはきまりがあることを捉える。	○家から出るごみの種類や量と、ごみを収集するときのきまりを調べ、気になったことや疑問に思ったことを話し合う。 ◆家からは様々な種類のごみが出ていること。ごみは種類ごとに分別して収集に出されていること。	①家から出たごみの種類と量を調べる。 ②ごみの分別の仕方や収集のきまりを調べる。 ③調べてわかったことを話し合う。	【知技】家から出るごみを調べ、ごみの種類や出る量には様々な違いがあることやごみを収集に出す際にはきまりがあることを捉えている。(発)(ノ)
学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう p.32～33 【配時1】	身の回りで出される様々な種類のごみが、どこでどのように処理されるのかについて調べるための学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○身の回りから出たごみについて調べて疑問に感じたことや知りたいと思ったことを話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆ごみの処理に関する問いを整理して一文にまとめ、学習問題として表し、学習計画を立てること。	①生活で出されるごみについて疑問に思ったことを話し合う。 ②話し合ったことをもとに、ごみの処理について調べることを整理し、学習問題をつくる。 ③学習問題について予想し、学習計画を立てる。	【思判表】家から出るごみの種類や量を調べ、ごみの収集方法や処理の仕方について問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】ごみの処理について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立て、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(行)

学習問題：わたしたちのくらしから出たごみは、どのようにして集められ、処理されるのだろう。

ごみの収集の様子を調べよう p.34～35 【配時1】	ごみの収集の様子に着目して、ごみを収集する際の工夫や、収集に出す際のきまりを捉える。	○ごみの出し方、収集の仕方や工夫を調べる。 ◆大量のごみを早く収集するための工夫があることや、ごみの種類によって処理方法が違うため分別して収集を行っていること。	①ごみの収集の様子を調べる。 ②ごみの収集の仕方や収集の工夫を調べる。 ③ごみを分別して収集している理由を考える。	【知技】ごみ収集の様子を観察したり、図から今と昔の収集の違いを読み取ったりして、ごみを収集する際の工夫や収集に出す際のきまりを調べている。(発)(ノ)
清掃工場を見学しよう p.36～37 【配時4】	清掃工場での燃やすごみの処理の仕方に着目し、処理の工夫について捉える。	○清掃工場を見学し、燃やすごみの処理の仕方と、処理する際の工夫について調べる。 ◆清掃工場では、燃やすごみを工夫して処理していること。	①清掃工場を見学する計画を立てる。 ②燃やすごみを処理する様子を調べる。 ③清掃工場で行われている処理の工夫や取り組みを調べる。	【知技】清掃工場を見学したり、清掃工場の資料を活用したりして、燃やすごみの処理の仕方や、処理の工夫を適切に調べている。(発)(ノ)

もやしたごみの灰のゆくえ p.38～39 【配時1】	埋立処分場での処理の仕方に着目し、処理の工夫について調べ、埋立処分場が抱える課題について捉える。	○埋立処分場での処理の仕方や処理の工夫について調べ、ごみのゆくえについてまとめる。 ◆埋立処分場の使用を継続できるように、処理の仕方を工夫し、周囲の環境にも配慮していること。	①ごみを燃やした後の灰のゆくえを調べる。 ②最終処分場の取り組みや工夫を調べる。 ③最終処分場がかかえる問題について話し合う。	【知技】埋立処分場での処理の仕方や工夫を調べ、ごみを処理し続けるには、費用や用地の確保といった課題があることを捉えている。(発)(ノ)
資源になるもののゆくえ p.40～41 【配時1】	資源の処理の仕方に着目し、リサイクルの流れと人々の取り組みについて捉える。	○資源の処理の仕方と、分別された資源のゆくえを調べる。 ◆資源をリサイクルしやすくするために、自分たちも分別に取り組むなどの協力が必要であること。	①資源ごみの処理の仕方を調べる。 ②仕分けられた資源ごみのゆくえを調べる。 ③リサイクルについて調べる。	【知技】資源の処理の仕方を捉え、資源をリサイクルしていくためには人々の協力が必要であることを理解している。(発)(ノ)
ごみが処理されるまでを整理しよう p.42～43 【配時1】	学習問題を確認、ごみの処理についてわかったことや考えたことをまとめる。 また、さらに調べたことを新たな学習問題として表し、学習の見通しをもつ。	○ごみを処理する仕組みについて調べたことをふり返し、わかったことと新たに生じた問題について話し合う。 ◆ごみの処理をめぐって、処理費用や処理する場所の確保などの問題があること。	①ごみの処理の仕組みをふり返って話し合う。 ②話し合いをもとに、ごみの処理の仕組みを図に表す。 ③ごみの処理にかかわるこれからの問題を話し合う。	【思判表】学習問題を確認、ごみの処理の仕方や工夫について考えたことを表現し、さらに調べたいことを新たな学習問題として表している。(発)(ノ) 【態】新たな学習問題を解決するための学習計画を立て、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(行)

新たな学習問題；これからは、くらしから出るごみを、どのように処理していけばよいだろう。

ごみの問題と向き合って p.44～45 【配時1】	区(市)のごみの量の変化と処理にかかる費用の変化に着目し、処理の仕方や人々の取り組みの変化について捉える。	○区(市)のごみの量の変化やごみの処理にかかる費用の変化について調べ、変化の理由を調べる。 ◆区(市)のごみの量や処理にかかる費用、処理の方法は、ごみの分別や3Rの取り組みなどによって変化してきたこと。	①区(市)のごみの量とごみの処理にかかる費用の変化について調べる。 ②ごみの量やごみの処理にかかる費用が増えたわけを考える。 ③ごみと資源ごみの処理について、どのような違いがあるのか考える。	【知技】区(市)のごみの量と処理にかかる費用の変化を人々の取り組みと関わらせて捉えるとともに、資源の処理にかかる費用の変化から資源の処理に関する課題を理解している。(発)(ノ)
地域の人々の取り組み p.46～47 【配時1】	ごみを減量するための地域の人々の取り組みに着目し、取り組みの工夫や効果を捉える。	○地域の人々のごみを減量するための取り組みとその工夫について調べる。 ◆地域の人々は、仕事などを通して、ごみの減量や再生利用の取り組みを進めていること。	①スーパーマーケットが行う、ごみを減らすための取り組みを調べる。 ②自治会などが行う、ごみを減らすための取り組みを調べる。 ③取り組みを調べて、わかったことや気づいたことを考える	【知技】地域の人々が行うごみを減量したり、再生利用したりする取り組みを調べ、その工夫や効果について理解している。(発)(ノ)
<まとめる> <つなげる> ごみの問題について、地域の人と話し合おう p.48～49 【配時2】	○学習問題をふり返し、ごみを減量するための取り組みを地域の人と一緒に話し合い、学習問題について自分の考えを表現する。 ○これからのごみの減量にむけて、自分たちにできる取り組みを考え、表現する。	○ごみに関わる問題やごみを減量するための地域の人々の活動をふり返し、ごみの減量のために自分たちにできることを考え、表現する。 ◆自分も地域社会の一員として、ごみ減量のためにできる取り組みがあること。	①ごみを減量するための地域の人々の取り組みを振り返る。 ②ごみに関する問題を地域の人々と話し合い、学習問題について考えたことをノートに書く。 ③学習問題について確かめ、ごみを減量するために自分にできることについて考え、発表する。	【思判表】学習問題を確認、ごみの処理についてわかったことや自分の生活と関連づけて考えたことを適切に表現している。(発)(ノ) 【態】ごみの処理や減量について自分が協力できることを考え選択・判断し、学習したことを生活に生かそうとしている。(発)(ノ)

小単元 2	水はどこから	配当時間 13 時間	教科書 4 p. 50～69
-------	--------	------------	-------------------

目 標

- 水を供給する仕組みについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 水を安定的に供給するための仕組みや人々の取り組みについて、それらが果たす役割を考え、水をどのように使っているかについて選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- 水の供給や使い方について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・水道事業は、安全で安定的に水道水を供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。 ・水道を供給する事業について、関連施設や事業所を見学したり、地図や関係機関が作成した資料などで調べたりして、県の白地図や図表などにまとめている。	・水道の供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現している。	・学習したことをもとに、水を大切な資源として捉え、節水などに向けて、自分たちが協力できることなどを考えたり選択・判断したりするなど、資源の有効利用に関心を高めようとしている。 ・水道を供給する仕組みについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名：2 水はどこから 【配当 13 時間】

※「水はどこから」か、p. 72～77、p. 78～79 の各内容のいずれかを選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
1日に使う水の量を調べよう p.50～51 【配時1】	家や学校で使われる水の用途や量を調べ、生活の様々な場面でたくさんの水が使われていることを捉える。	○自分の家の水の用途や使用量、学校の水の使用量などを調べ、疑問に感じたことを話し合う。 ◆水は日常生活の様々な場面で大量に使われていること。	①自分たちが1日に、どこで、どれくらいの量の水を使っているかを調べる。 ②家や学校で使われる水の量や、自分たちの水の使い方について、気づいたことを話し合う。 ③話し合ったことをもとに、水について、気になったことや疑問に思ったことを発表する。	【知技】自分たちは家庭や学校など、生活の様々な場面でもたくさんの水を使っていることを捉えている。(発)(ノ)
学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう p.52～53 【配時1】	自分たちが生活の中で使っている大量の水を、誰がどのようにして供給しているのかについて調べるための学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○水の供給について、知りたいことや疑問に思ったことを整理して学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆水の供給に関する問いを整理して一文にまとめ、学習問題として表し、学習計画を立てること。	①生活で使っている水について疑問に思ったことを話し合う。 ②話し合ったことをもとに、水の供給について調べるための学習問題をつくる。 ③学習問題について予想し、学習計画を立てる。	【思判表】水の用途やその使用量を調べて思ったことや考えたことを発表し、水の供給について問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】水の供給について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立て、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(行)
学習問題：わたしたちがくらしの中で使っている水は、どのようにして送られてくるのだろう。				
水はどこから流れてくるのか p.54～55 【配時1】	水源やダム、浄水場などの水道に関わる施設に着目して、水の経路について捉える。	○地図や写真資料などを用いて、自分たちの使う水が送られてくる経路について調べる。 ◆自分たちが使う水は、水源から河川、ダムや浄水場などの各施設を経て送られてきていること。	①水道管をたどると、どこへつながるかを調べる。 ②水道にかかわる施設がどこにあるか、地図で調べる。 ③調べたことを記録していく方法を考える。	【知技】地図や資料をもとに、水源から自分たちのもとに水が送られてくるまでに関わる施設や経路について捉えている。(発)(ノ)
浄水場を見学しよう p.56～57 【配時3】	浄水場の仕組みやそこで働く人の仕事の工夫に着目して、浄水場の役割を捉える。	○浄水場にある施設や浄水の仕組みについて、働く人から話を聞いたり、図解を見たりして調べる。 ◆浄水場のはたらきによって、安心して飲める水道水が安定的に供給されていること。	①浄水場の様子や仕組みを調べる。 ②浄水場で働く人の仕事を調べる。 ③調べて分かったことをカードに書く。	【知技】浄水場の仕組みやそこで働く人の仕事の工夫を捉え、浄水場の役割を理解している。(発)(ノ)
水道管を守る人々 p.58～59 【配時1】	水道管の役割や水道管を守る人々の工夫や努力に着目して、水道の普及が公衆衛生の向上に果たした役割について捉える。	○水道管の役割について話し合ったり、水道管を守る人々の取り組みについて調べたりして、水道管の普及が人々の暮らしに与えた影響について考える。 ◆水道管を守る人々の努力によって、私たちは安全な水を安定的に使うことができること。水道の普及は公衆衛生に役立っていること。	①水道管のはたらきを考える。 ②水道管を守るための県の取り組みについて調べる。 ③水道の広がりや、人々の生活に果たした役割について考える。	【知技】水道管を守る人々の工夫や努力によって水道水の安定供給が支えられていることや、水道の普及が公衆衛生の向上に役立っていることを理解している。(発)(ノ)

水をたくわえる 湖とダム p.60～61 【配時1】	湖とダムのはたらきに着目して、それらの役割や機能を捉える。	○ダムを見学して、ダムや湖のはたらきについて、係の人から話を聞いたり、図解を見たりして調べる。 ◆ダムは水道水を安定供給するために貯水量や流水量を調節していること。また、ダムと湖には保水作用という共通のはたらきがあること。	①ダムのはたらきを調べる。 ②森林のはたらきを調べる。 ③ダムと森林に共通するはたらきについて考える。	【知技】ダムと湖のはたらきについて考え、人々の暮らしにダムが果たす役割や機能を理解している。(発)(ノ)
水源を守る取り組み p.62～63 【配時1】	水源の森林の保全に努めるボランティアや県、河川の美化に努める住民の活動に着目し、県や地域を越えた水を守るための取り組みについて調べる。	○水源の美化活動や水源の森林を守る活動に携わる人、活動に協力する県の担当者などから話を聞いたり、活動している場所を地図で確認したりする。 ◆水源地や沿川地域の人々と県は協力して水を守る取り組みを進めていること。その取り組みは県や地域を越えて行われていること。	①水源の森林を守るための活動について調べる。 ②水源や川の水をきれいに保つ取り組みを調べる。 ③水源や川の水を守る様々な取り組みが行われている理由を考える。	【知技】水源や河川の水質を守るための取り組みを、人々は県や地域を越えて協力して行っていることを理解している。(発)(ノ)
使ったあとの水のゆくえは p.64～65 【配時1】	使った後の水のゆくえと下水処理施設のはたらきに着目して、水源から下水処理されるまでを総合的にふり返り、水の循環を捉える。	○使った後の水のゆくえと、下水処理のはたらきを調べる。 ◆使った後の水は、下水処理施設を経て海に流され、蒸発して再び雨になって水源に降り注ぎ、自分たちの使う水となるというように、水は循環していること。	①使ったあとの水のゆくえを資料で調べる。 ②下水処理施設のはたらきを調べる。 ③下水処理施設できれいにした水のゆくえを調べ、水の循環について考える。	【知技】使った後の水のゆくえと下水処理施設のはたらきを調べ、水源から下水処理まで水の動きを総合的にふり返り、水の循環を捉えている。(発)(テ)
＜まとめる＞ 水の通り道を すごろくに表そう！ p.66～67 【配時2】	水が供給されるまでの経路をふり返り、水道事業の役割や人々の協力をすごろくに表すとともに、学習問題について自分の考えを表現する。	○水が供給されるまでの経路をすごろくに表し、水道事業の役割や人々の協力について考え、学習問題について自分の考えをまとめる。 ◆水が供給されるまでには、様々な施設や人々の連携や協力があること。水を大切に使うために自分にできる取り組みがあること。	①調べてきたことをもとに、水が供給されるまでの経路をすごろくに表す。 ②すごろくのゲームを通して、水道事業の役割や人々の協力についてふり返る。 ③学習問題について自分の考えをまとめ、水を大切に使うために自分にできることを考え、表現する。	【思判表】学習問題を確かめ、水を供給する仕組みや安定的に供給するための工夫や取り組みについてわかったことを、自分の言葉で表現している。(発)(ノ) 【態】学習をふり返り、水を大切に使うために自分が協力できることを、主体的に考え発表しようとしている。(発)(ノ)
＜つなげる＞ 水を大切に使うということは… p.68～69 【配時1】	地域の人々の水の使用量の変化に着目して、節水の取り組みが進められていることを捉え、自分たちにできることを考え、表現する。	○グラフなどの資料から、自分たちの地域の水の使われ方の変化に着目して、節水への取り組みについて調べ、自分たちにできることを話し合う。 ◆市内の工場や各家庭では以前に比べ水の使用量が減ってきていること。また、市民も水を大切に使うようとする意識が高まってきていること。	①これまでに書いたノートや作ったすごろくから、調べてきたことをふり返る。 ②自分たちの地域では、水がどのように使われているかを調べる。 ③水を大切に使う取り組みを調べ、自分たちにできることを考え、表現する。	【態】地域の人々の節水の取り組みを捉え、さらに自分や地域の人々にできることを主体的に考え選択・判断し、表現しようとしている。(発)(ノ)
ごみと水について学んだことを、くらしに役立てよう p.70～71 【配時1】	ごみの減量や節水を生活の中で実践し、考えたことや感じたことを話し合い、今後の自分たちの行動について考え、表現する。	○ごみの減量や節水を暮らしの中で実践して考えたことや気になったことを話し合い、これからの自分たちの行動に生かすためにどうしたらよいかを考える。 ◆実際にごみの減量や節水に取り組んでみても、その成果が思うように表れない場合があること。	①学習を生かして、ごみの減量や節水を実践する。 ②実践をして思ったことや感じたことを話し合う。 ③話し合ったことをもとに、これからの自分たちはどのように行動すべきか考える。	【思判表】ごみの減量や節水に取り組み、その経験をもとに感じたことや考えたことを適切に表現している。(発)(ノ) 【態】学習したことをもとに、ごみの減量や節水を暮らしの中で実践しようとしている。(発)(行)

せんたく：くらしと電気

※「水はどこから」「くらしと電気」「ガスはどこから」のいずれか一つを選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
電気はどこから p.72～73	電気と自分たちの暮らしとの結びつきに着目し、電気の供給について調べるための学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○停電が起きた場合の暮らしへの影響について話し合ったり、送電の経路を資料で調べたりして、暮らしと電気との関わりについて調べる学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆電気にはいくつかの発電方法があり、自分たちが使う電気は送電線により自地域以外からも送られていること。	①停電が起きたら、暮らしはどうなるかを話し合う。 ②電気がどこから送られてくるのかを調べる。 ③暮らしと電気とのかかわりを考え、学習問題をつくる。	【思判表】電気がどこからどのように送られてくるのかという学習問題を考え、表現している。(発)(ノ) 【態】自分たちが暮らしで使っている電気の供給について調べる見通しをもって、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(行)
学習問題；くらしをささえる電気は、どこで、どのようにしてつくられ、送られてくるのだろう。				
どのようにして、電気をつくるの p.74～75	電気を安定供給する仕組みに着目し、暮らしに必要な電気が不足しないための計画的な取り組みと、3種類の発電の仕組みや特徴を理解する。	○どうすれば停電が起きないかを話し合い、電気の需給量と各種の発電方法について資料で調べる。 ◆電気は不足しないよう計画的に供給されており、主要な発電方法である火力・原子力・水力はそれぞれ仕組みが異なり、特徴があること。	①停電を起こさないために、どのようなことが必要かを、話し合う。 ②電気が不足なくつくられているかどうか、グラフから確かめる。 ③発電の仕組みごとに、電気のつくり方や特徴を調べる。	【知技】電力を安定供給するために、計画的な取り組みがなされていることや、主要な発電方法の仕組みや特徴を理解している。(発)(ノ)
くらしと電気これから p.76～77	学習問題についてわかったことをまとめ、必要な電気が不足しないようにするために、どのようなことが大切かを考える。	○自然の力を利用する発電を進めようとしている理由と、電気をむだなく使う節電の方法について調べ、話し合う。 ◆電力供給のあり方として、安定的であるとともに、安全性かつ環境負荷低減への留意が必要であること。電力使用量を減らす節電への取り組みが重要であること。	①自然の力を利用した発電の仕組みについて調べる。 ②自然の力を利用してつくった電気を、暮らしに使っていかようとしているわけを考える。 ③暮らしに必要な電気をこれからどのようにつくり、使っていけばよいのかを考え、まとめる。	【知技】自然の力を利用した発電の仕組みがあり、それらを暮らしに使っていかようとする取り組みが進められていることを理解している。(発)(ノ) 【思判表】電気の使用について自分が協力できることを考えたり、学習したことの中から選択・判断したりして、発表している。(発)(ノ)

せんたく：ガスはどこから

ガスはどこから p.78～79	暮らしに欠かせないガスの供給について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立てる。そして、ガスを安定的に供給する人々の工夫や取り組みを捉え、ガスの節約など自分たちに協力できることを考える。	○自分たちの暮らしのどこでガスを使っているかを話し合い、ガスを安定的に供給するための工夫や取り組みについて調べる。 ◆ガスを安定的に供給するために監視体制や災害対策が整えられていること。ガスを節約するなどの取り組みが重要であること。	①自分たちは、ふだんどのようなことにガスを使っているかを話し合う。 ②ガスが、どのように送られてくるかを調べる。 ③ガスを安定して送り届けるために、どのような工夫があるかを調べる。	【態】ガスの供給について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立て、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(ノ)(行) 【知技】ガスは計画的に生産され、安定的に供給するために、様々な工夫や取り組みが行われていることを理解している。(発)(ノ) 【思判表】学習問題を確かめ、ガス供給のあり方や節約の必要性について調べたことを踏まえて、自分が協力できることを考えたり学習したことの中から選択・判断したりして、発表している。(発)(ノ)
--------------------	---	---	--	--

大単元 3	自然災害にそなえるまちづくり	配当時間 10 時間	教科書 4 p. 80～97
-------	----------------	------------	-------------------

目 標

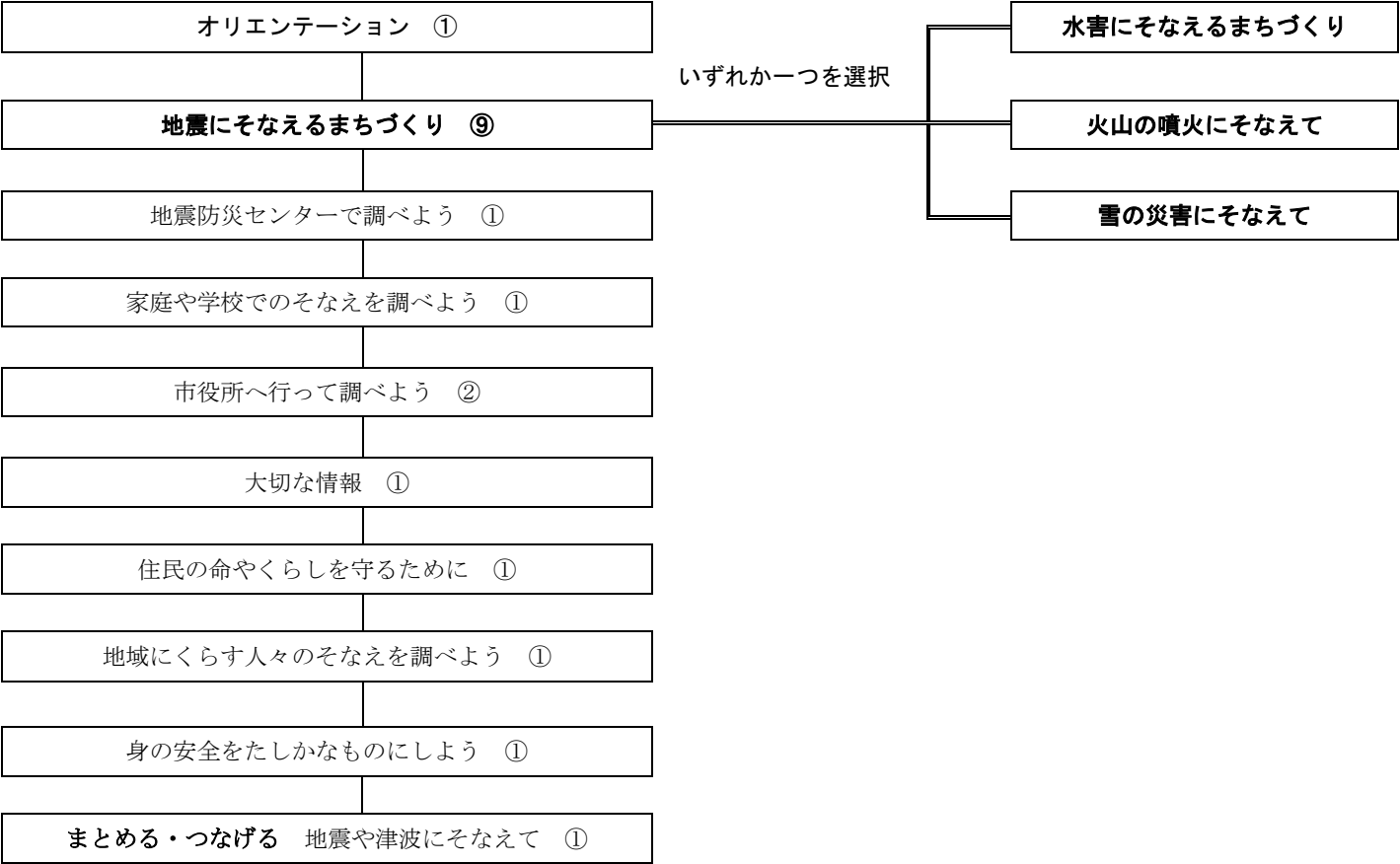
- 自然災害から地域の安全を守るための諸活動について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
 - 自然災害から地域の安全を守るための諸活動の特色や関連機関や人々の協力を捉えて、そうした取り組みの意味を考え、地域に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への
- 関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。

 - 自然災害から地域の安全を守るための諸活動について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことを理解している。 ・地域の関係機関や人々は、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現する。 ・地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして表現している。	・自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えようとしている。

大単元の構成



○の中の数字は、配当時数

大単元名：3 自然災害にそなえるまちづくり 【配当 10 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
オリエンテーション p.80～81 【配時 1】	各地で起こる様々な自然災害の写真を読み取り、自分たちの地域で特に起こりやすい自然災害を調べる対象として選ぶ。	○自然災害の写真を見て感じたことや、自然災害について知っていることなどを発表し、自分たちの地域ではどのような自然災害が起こるのかについて話し合う。 ◆自然災害には様々な種類があり、自分たちの地域でも起こりやすい自然災害や発生が予想される自然災害があること。	①自然災害が起こっているときの写真を読み取る。 ②自然災害について、知っていることや見聞きしたことを発表する。 ③発表をもとに、自分たちの地域では、どのような自然災害が起こるのかを話し合い、災害への備えに関心をもつ。	【思判表】様々な自然災害の写真などを見て思ったことや考えたことを発表し、調べる自然災害を選び出している。(発)(行)

単元名：地震にそなえるまちづくり 【配当 9 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
地震防災センターで調べよう P82～83 【配時 1】	自分たちの地域で過去に起きた地震に着目し、地震がくり返し起こってきたことを理解する。	○地震防災センターを見学し、県内で過去に起こった地震について、係の人から話を聞いたり、年表や展示資料などを見たりして調べる。 ◆県内ではこれまでも大きな地震がくり返し起こってきたこと。	①地震防災センターで調べる計画を立てる。 ②過去に地域で起こった地震や津波について調べる。 ③年表を見て、地域で起こる災害の特徴について考える。	【知技】地域では過去に大きな地震が起きたことがあり、今後も大きな地震の発生が予想されていることを理解している。(発)(ノ)
家庭や学校でのそなえを調べよう p.84～85 【配時 1】	家庭や学校などの地震や津波への対策に着目し、地震や津波に備える地域の取り組みについて調べるための学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○地震や津波の災害と、それらへの備えについて知りたいことを話し合い、調べたいことを明らかにして学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆自分たちの身の回りには地震や津波に備える取り組みがあること。自分たちの地域の地震や津波に対する備えについて調べるための学習問題をつくり、学習計画を立てること。	①地震が起こった場合に、気がかりになることを話し合う。 ②地震への備えについて知りたいことを整理して、学習問題をつくる。 ③学習問題について予想し、学習計画を立てる。	【思判表】地震やその備えについて気になることを話し合い、それらをもとに問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】自分たちの地域の地震や津波への備えについて調べるための学習問題をつくり、学習計画を立て、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(ノ)
学習問題；わたしたちの地域では、地震や津波にそなえて、だれがどのような取り組みをしているのだろう。				
市役所へ行って調べよう p.86～87 【配時 2】	地震や津波に備える市の取り組みに着目し、県や国などの関係機関の協力の仕組みについて理解する。	○市役所を見学し、係の人から地震や津波に備える市や県、その他の関係機関のはたらきについて話を聞く。調べたことを、ノートや図にまとめる。 ◆市や県は消防や警察などの関係機関と協力して地震や津波に備えていること。	①市役所へ行って地震や津波に備える取り組みを調べる。 ②地震や津波が起こったときの関係機関の役割について調べる。 ③地震や津波に備える市の取り組みについてわかったことをノートに書く。	【知技】市は、地震の際に住民を守るために、県や国などの関係機関と協力していることや、地震や津波に備えて地域防災計画などを作成していることを理解している。(発)(ノ)

大切な情報 p.88～89 【配時 1】	地震や津波に備える市の取り組みに着目し、住民の安全を守るためには、地震や津波に関する情報の収集や提供が大切であることを理解する。	○地震発生時に市はどのように情報を収集し、住民に発信しているか、また、災害への備えとして、日頃よりどのような情報を収集・提供しているかについて、市役所の係の人に話を聞き、調べる。 ◆地震発生時に市は県や国、関係機関と協力して正確な情報を迅速に収集すること。また、地震や津波に備えるために普段から様々な情報を収集し住民に提供していること。	①市は、地震や津波の情報をどのようにして集めているのかを調べる。 ②市は、地震や津波の情報をどのようにして住民に伝えているのかを調べる。 ③市が、ハザードマップや広報紙で伝えている情報を調べる。	【知技】市は大きな地震の発生に備えて、日頃から災害時の避難に関する情報を提供していることや、地震発生時には住民に正確な情報を早く届ける努力をしていることを理解している。(発)(ノ)
住民の命やくらしを守るために p.90～91 【配時 1】	地震や津波に備える市の取り組みに着目し、住民の安全を守るために必要な施設や設備と、それらの役割について理解する。	○地域にある避難地や避難施設、防災設備と、それらの設置されている場所について市役所の係の人に話を聞き、調べる。 ◆避難地に指定されている公園などには、避難者の生活を支えるための設備が市によって設けられていること。また、避難施設は予想される災害の大きさに備えて、市が計画的に配置していること。	①大きな地震が起こったときに、避難する場所はどこか話し合う。 ②地震や津波から住民の命やくらしを守る施設や設備を調べる。 ③避難施設の位置を地図で調べる。	【知技】市は、大きな地震の発生時に住民を避難させるための施設や、避難地で生活するための設備をつくって地震に備えていることを理解している。(発)(ノ)
地域にくらす人々のそなえを調べよう p.92～93 【配時 1】	地域の人々による地震への備えに着目し、自分たちができることに日頃から取り組むことの大切さを理解する。	○地域の自治会や住民の自主防災の取り組みについて話を聞いたり、自主防災倉庫を見学したりして調べる。 ◆地域の人々は、地震に備えるために、日頃から自分たちにできる取り組みをしていること。	①地域の自治会が取り組む地震への備えを調べる。 ②自治会の人々の、地震に備えるためのくふうを調べる。 ③地域の住民の、地震に備える取り組みを調べる。	【知技】地域の人々は、地震に備えて、日頃から自分たちにできる取り組みを行っていることを理解している。(発)(ノ)
身の安全をたしかなものにしよう p.94～95 【配時 1】	地震や津波に備える人々の様々な取り組みに着目し、より確実に身を守るために大切なことを捉える。	○様々な状況での災害発生を想定した避難訓練や、災害時に主体的に判断して身を守った事例などを調べ、災害時に確実に身を守るために大切なことについて考える。 ◆様々な状況を想定した避難訓練が行われていること。実際の災害でも、身を守るためには、主体的に判断し避難することが大切であること。	①実際に大きな地震が起こったとき、自分の身を守るにはどうしたらいいかを話し合う。 ②災害時に、身の安全をたしかなものにするための取り組みを調べる。 ③身の安全をより確かなものにするために、大切なことは何かを考える。	【知技】身の安全を確実に守っていくためには、既存の災害対策に頼るだけでなく、自分自身で主体的に判断することも大切だということを理解している。(発)(ノ)
<まとめる> <つなげる> 地震や津波にそなえて p.96～97 【配時 1】	地域の地震に備える取り組みをふり返り、学習問題について自分の考えをまとめる。災害に備える取り組みについて、自分たちに実践できることを考え、表現する。	○大きな地震の発生に備えて誰がどのような取り組みをしているか、また、実際に地震や津波が発生すると、誰がどのようにして人々の命を守るのかについて、調べてきたことをまとめる。 ◆自分たちの地域では、様々な関係機関や地域の人々が協力して地震や津波災害に備えていること。地域の一員として、地震や津波災害に備えて自分ができる取り組みがあること。	①学習問題を確かめ、調べてきたことをふり返る。 ②誰がどのような取り組みをしたか、調べたことを表に整理する。 ③調べてきた取り組みの中から、自分が特に大切だと思うものを選び、理由とともに発表する。	【思判表】学習問題を確かめ、自分たちの地域が地震や津波災害にどのように備えているのかについて表現している。(発)(ノ) 【態】地震や津波災害に備えるために自分が協力できることを考え、学習したことをふまえて選択・判断し、実践しようとしている。(発)(行)

せんたく 単元名：水害にそなえるまちづくり 【配当 9 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
水につかった まち p.98～99 【配時 1】	過去に起こった水害に着目し、地域では水害にどのように備えているかについて調べたいことを明らかにして、学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○過去に地域で起こった水害の写真を見て、水害から人々を守る仕組みについて調べたいことを明らかにして学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆地域では過去に水害が発生したこと。自分たちの地域の水害に対する備えについて調べるための学習問題をつくり、学習計画を立てること。	①過去に起こった水害の写真を見て、感じたことを話し合う。 ②疑問に思ったことや、知りたくなったことを話し合う。 ③話し合ったことをもとに学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】地域で起こった水害の写真を見て考えたことをもとに問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】自分たちの地域の水害への備えについて予想したことを話し合い、見通しをもって主体的に追究しようとしている。(発)(行)
学習問題：わたしたちの地域では、水害にそなえて、だれがどのような取り組みをしているのだから				
水防学習館 で調べよう p.100～101 【配時 2】	過去に地域で起こった水害に関する地図や年表に着目し、地域では水害がくり返し起こってきたことを理解する。	○水防学習館へ行き、写真や年表を使って、地域で起こった過去の水害やその発生原因について調べる。 ◆地域では、これまでに何度も水害が起こっており、水害が起こりやすい地理的条件があること。	①水防学習館へ行って、過去に起こった水害について調べる。 ②年表や地図を見て、地域で起こる災害の特徴を考える。 ③私たちの地域で、水害が起こりやすいわけを調べる。	【知技】地域ではこれまでもくり返し水害が起こってきたことや、水害が起こりやすい地理的条件があることを理解している。(発)(ノ)
地域の住民 の取り組み p.102～103 【配時 1】	地域の人々による水害への備えに着目し、自分たちにできることに日頃から取り組むことの大切さを理解する。	○地域の消防団の人や住民から、水害に備える活動について話を聞く。 ◆地域では水防団活動や避難訓練が行われ、避難時に住民同士が助け合うための取り組みがあること。	①地域で水防活動をしている人から話を聞く。 ②地域で行われる避難訓練について調べる。 ③地域の住民の水害に対する様々な備えを調べる。	【知技】地域の人々は、水害に備えて、日頃から自分たちにできる取り組みを行っていることを理解している。(発)(ノ)
市役所へ 行って調べよう p.104～105 【配時 2】	水害に備える市の取り組みに着目し、市や県などの関係機関の協力の仕組みについて理解する。	○市役所へ行き、係の人から水害に備える市や県、その他の関係機関のはたらきについて話を聞き、調べたことをノートや図にまとめる。 ◆市や県は消防や警察などの関係機関と協力して水害に備えていること。	①市役所へ行って、水害に備える市の取り組みを調べる。 ②水害が起こったときの関係機関の役割について調べる。 ③水害に備える市の取り組みについて、わかったことをノートに書く。	【知技】市は、県や国などの関係機関と協力していることや、地域防災計画などを作成し日頃から水害に備えていることを理解している。(発)(ノ)
ひがいがくり 返されないた めに p.106～107 【配時 2】	水害に備える市や県、国の取り組みに着目し、住民の安全を守るための施設や設備と、それらの役割について理解する。	○市役所の係の人から、市や県、国が水害対策のために設置した施設や設備について話を聞いたり、資料で調べたりする。 ◆市、県、国は、水害に備える施設や設備を設置してきたこと。日頃から住民に向けて水害に備えるための意識啓発を行っていること。	①市や県、国は、水害に備えて、どのような取り組みをしているのか、考える。 ②市や県、国の水害に備える取り組みを調べる。 ③過去の水害が、今の備えにどのように生かされているかを考える。	【知技】市は県や国と協力して、水害に備えるために河川を改修したり、施設や設備をつくったりしていることを理解している。(発)(ノ)
<まとめる> <つなげる> 水害にそな えて p.108～109 【配時 1】	自分たちの地域の水害に備えるための取り組みをふり取り、学習問題について自分の考えをまとめる。災害に備える取り組みについて、自分たちに実践できることを考え、表現する。	○水害の発生に備えて誰がどのような取り組みをしているか、また、実際に水害が発生すると、誰がどのようにして人々の命を守るのかについて、調べたことをまとめる。 ◆自分たちの地域では、様々な関係機関や地域の人々が協力して水害に備えていること。地域の一員として、水害に備えて自分たちにできる取り組みがあること。	①学習問題を確認、調べてきたことをふり返る。 ②誰がどのような取り組みをしたか、調べたことを表に整理する。 ③調べてきた取り組みの中から、自分が大切だと思うものを選び、理由とともに発表する。	【思判表】学習問題を確認、自分たちの地域の水害への備えについてわかったことを図に表現している。(発)(ノ) 【態】水害に備えるために自分が協力できることを考え、学習したことをふまえて選択・判断し、実践しようとしている。(発)(行)

大単元 4	地域で受けつがれてきたもの	配当時間 10 時間	教科書 4 p. 114～129
-------	---------------	------------	---------------------

目 標

- 地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- 地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している。 ・県内の伝統や文化について、博物館などを見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめている。	・文化財や年中行事の歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。 ・地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりしたことを表現している。	・県内の伝統や文化について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ・学習したことをもとに、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりしようとしている。

大単元の構成

地域で受けつがれてきたもの ⑩
オリエンテーション ①
阿波おどり会館で調べよう ②
おどりにての人に話をきこう ①
阿波おどりを受けつぐ、広げる ①
まとめる 阿波おどりの発展を願って ①
阿波人形浄瑠璃について調べよう ①
阿波人形浄瑠璃と農村舞台を守るために ①
まとめる 未来へ、受けつがれていくために ①
つなげる わたしたちも伝えよう ①

○の中の数字は、配当時数

単元名：4 地域で受けつがれてきたもの 【配当 10 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現

(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
オリエンテーション p.114～115 【配時 1】	自分たちの県には、大勢の人が参加したり、見物したりしている年中行事があることを捉える。	○地域の伝統行事の写真などを見て、知っていることや感じたことを話し合う。 ◆阿波おどりは大勢の人が様々な着物や小道具を身に付けて揃って踊り、他地域からは多くの見物客が来る祭りであること。	①地域で行われる年中行事を発表する。 ②阿波おどりについて、知っていることを発表する。 ③阿波おどりの写真を見て、気になったことや知りたくなったことを話し合う。	【知技】自分たちの県を代表する年中行事には、大勢の人が参加したり、見物に来たりしていることを捉えている。(発)(ノ)
阿波おどり会館で調べよう p.116～117 【配時 2】	阿波おどりの由来や歴史に着目して、阿波おどりが長い間、人々に受け継がれてきたことについて調べるための学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○阿波おどり会館の展示物や資料、年表を見て、阿波おどりについて気になったことや疑問に思ったことをもとに、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆阿波おどりは長い間地域で受け継がれてきたこと、踊りの様子は変化してきたこと。	①阿波おどり会館へ行って、阿波おどりのことを調べる。 ②調べたことをもとに、気になったことや疑問に思ったことを話し合う。 ③話し合ったことをもとに学習問題をつくり、予想を分類・整理し、学習計画を立てる。	【思判表】阿波おどりの様子を見て感じたことや考えたことをもとに問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】阿波おどりがどのように継承されてきたかについて予想を話し合い、見通しをもって主体的に追究しようとしている。(発)(行)
学習問題；阿波おどりは、どのようにして、長く続いてきたのだろう。				
おどりの人に話をきこう p.118～119 【配時 1】	阿波おどりのもつよさに着目して、おどりの人から話を聞いたり、実際に自分も踊ったりして、踊りのよさを体感する。	○おどりの人から阿波おどりのよさを聞いたり、実際に自分も踊ってみたりして、阿波おどりにどのようなよさがあるのかを話し合う。 ◆阿波おどりは地域の人々にとって特別な思いのある行事であること。おどりの人は連というまとまりになって、気持ちを一つにして踊っていること。	①おどり手の人に、阿波おどりのよさを聞く。 ②自分も阿波おどりを踊ってみる。 ③阿波おどりのよさについて、分かったことをノートに書く。	【知技】おどりの人の話を聞いて、阿波おどりは参加する全員が一緒になって楽しむ特別な行事であることを理解している。(発)(ノ)
阿波おどりを受けつぐ、広げる p.120～121 【配時 1】	阿波おどりが発展してきた背景に着目し、阿波おどりの発展には、おどりの努力以外にも見物客や会場設営に携わる人々の支えがあることを理解する。	○阿波おどりが発展した経緯について祭りの主催者から話を聞いたり、他県の阿波おどり開催地を示した地図を見たりして、踊りの広まりを調べる。 ◆阿波おどりは、他地域からの見物客が増えたり、他地域に広がったりしたこと。阿波おどりの発展には、おどりの見物客、会場設営者などの協力があつたこと。	①阿波おどりを見に来る人が増えたわけを調べる。 ②阿波おどりがどのように広まったのかを調べる。 ③阿波おどりが、人々のどのような取り組みによって発展してきたかを考える。	【知技】阿波おどりの継承や発展には、様々な人々の工夫や努力があつたことを理解している。(発)(ノ)
<まとめる> 阿波おどりの発展を願って p.122～123 【配時 1】	阿波おどりが発展してきた経緯や、人々の取り組みをふり返り、学習問題について自分の考えをまとめる。	○阿波おどりが発展した経緯や、様々な立場の人々の取り組みについて、調べてきたことをまとめる。 ◆阿波おどりは様々な立場の人々の取り組みによって発展し、他地域にも広まったこと。地域の一人として、阿波おどりの発展にむけて自分たちができる取り組みがあること。	①学習問題を確認、誰がどのような取り組みをしたか、調べたことを表に整理する。 ②調べてきた取り組みの中から、自分が大切だと思うものを選び、理由とともに発表する。 ③阿波おどりでの学習を生かし、他の伝統文化について調べるための学習問題を立てる。	【思判表】学習問題を確認、阿波おどりが長く続いてきたことや、そのための人々の取り組みについてわかったことを自分の言葉で適切に表現している。(発)(ノ) 【態】県内の他の伝統文化にも関心を広げ、新たな学習問題をつくり、見通しをもって主体的に追究しようとしている。(発)(行)
新たな学習問題；阿波人形浄瑠璃は、どのように受けつがれてきたのだろう。				

阿波人形浄瑠璃について調べよう p.124～125 【配時 1】	阿波人形浄瑠璃の歴史に着目し、長い間、県の伝統芸能として、人々に継承されてきたことを理解する。	○阿波人形浄瑠璃がどのようなものかについて、資料館の人や人形つかいの人から話を聞いたり、年表や資料を使ったりして調べる。 ◆阿波人形浄瑠璃は国の重要文化財であり、人々の楽しみとして長い間受け継がれてきたこと。阿波人形浄瑠璃を守り伝えたいと願う人々によって、現在も継承の努力が続けられていること。	①資料館へ行き、阿波人形浄瑠璃について調べる。 ②阿波人形浄瑠璃で使われる人形を動かしてみる。 ③阿波人形浄瑠璃を守り伝える人の思いや願いを調べる。	【知技】阿波人形浄瑠璃には長い歴史があり、それを守り伝えていくために人々が様々な努力をしていることを理解している。(発)(ノ)
阿波人形浄瑠璃と農村舞台を守るために p.126～127 【配時 1】	阿波人形浄瑠璃が上演される農村舞台に着目し、阿波人形浄瑠璃と一体的に保存が行われてきたことを捉える。	○農村舞台の保存に携わる人から話を聞き、阿波人形浄瑠璃や農村舞台を保存・継承していくための取り組みについて調べる。 ◆阿波人形浄瑠璃が隆盛の時代には多数の農村舞台が存在したこと。現在、阿波人形浄瑠璃と農村舞台を守るための取り組みが工夫しながら進められていること。	①農村舞台が保存されるようになるまでにどのようなできごとがあったかを調べる。 ②農村舞台の保存に関わる人から、保存の取り組みについて話を聞く。 ③阿波人形浄瑠璃と農村舞台を守り伝えるための工夫を調べる。	【知技】阿波人形浄瑠璃を守り伝えるためには、農村舞台の保存も大切であり、そのために様々な取り組みが行われていることを理解している。(発)(ノ)
<まとめる> <つなげる> 未来へ、受けついでいくために p.128～129 【配時 2】	調べてきたことをふり返り、学習問題について自分の考えをまとめ、県内の文化財や年中行事を保存・継承していくために自分にできることを考え、表現する。	○調べてきた文化財や年中行事についてふり返り、それぞれの歴史や保存・継承のための取り組みなどの項目に分けて表に整理する。整理した表を見て、調べた文化財や年中行事に関する共通点・相違点を見出す。 ◆文化財や年中行事を保存・継承していくために自分たちにできる取り組みがあること。	①阿波人形浄瑠璃を保存・継承していくための取り組みについてふり返る。 ②阿波人形浄瑠璃と阿波おどりについて調べたことを比べながら表に整理する。 ③学習したことをふり返り、文化財や年中行事を保存・継承していくために大切だと思うことを考え、デジタル紙芝居に表現する。	【思判表】学習問題を確かめ、阿波人形浄瑠璃がどのように継承されてきたかについて、自分の考えを表現している。(発)(ノ) 【態】文化財や年中行事の保存や継承について、自分が協力できることを考え選択・判断して、主体的に発表している。(発)(ノ)

大単元 5	昔から今へと続くまちづくり	配当時間 13 時間	教科書 4 p. 130～151
-------	---------------	------------	---------------------

目 標

- 地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 地域の発展に尽くした先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて、先人が当時の地域や人々の生活の向上に貢献したことを考え、表現する力を養う。
- 地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。 ・先人の働きについて、博物館や資料館などを見学したり、昔と現在の市の地図や写真などの資料で調べたりして、年表などにまとめている。	・当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現している。	・先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

大単元の構成

昔から今へと続くまちづくり ⑬
オリエンテーション ①
米がほしいけれど ①
見沼代用水と井沢弥惣兵衛 ①
どうやって水を引いた？ ②
ふたてに分かれた用水路 ②
どのようにして工事は行われた？ ①
調べてきたことを整理しよう ①
もっと知りたいな、井沢弥惣兵衛 ①
そして、ゆたかな土地に ①
未来に残そう、みんなの見沼 ①
まとめる 昔と今を年表や地図でつなげよう！ ①

○の中の数字は、配当時数

単元名：5 昔から今へと続くまちづくり 【配当 13 時間】

※「昔から今へと続くまちづくり」と p.152～153、p.154～155、p.156～157、p.158～159 のいずれかの内容を選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
オリエンテーション p.130～131 【配時 1】	地域の昔の様子を伝える行事や史跡に着目して、自分たちの地域の昔の様子を捉える。	○地域の昔の様子を伝える史跡や行事の写真を見て、自分たちの地域は昔どのような所だったのかを話し合ったり、調べたりする。 ◆約 300 年前の地域は、水田が開かれた多くの米がとれたこと。	①地域の昔の様子を伝える史跡や行事を見学する。 ②地域は昔、どのような所だったのかを話し合う。 ③地域は昔、どのような場所だったかについて調べる。	【知技】自分たちの地域は、昔、新田開発によって米がたくさん取れる地域に変化したことを捉えている。(発)(ノ)
米がほしいけれど p.132～133 【配時 1】	昔の地域の人々が抱えていた課題に着目して、誰がどのようにして地域に田を開いたのかについて調べるための学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○地域の昔の様子に詳しい人から話を聞いたり、開発前と開発後の様子を地図で見比べたりして、調べる。 ◆昔、地域の人々には、田を開いて米を増産したいという願いがあったこと。自分たちの地域の新田開発について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立てること。	①新田開発が行われたわけを調べる。 ②調べたことをもとに、気になったことや疑問に思ったことを話し合う。 ③話し合ったことをもとに、学習問題をつくり、予想を分類・整理し、学習計画を立てる。	【思判表】自分たちの地域で行われた新田開発について問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】自分たちの地域では、どのようにして田が開かれたのかについて予想を話し合い、見通しをもって主体的に追究しようとしている。(発)(行)
学習問題：昔の地域の人々は、どのようにして、米がたくさんとれる田を開いたのだろう。				
見沼代用水と井沢弥惣兵衛 p.134～135 【配時 1】	新田開発が行われた場所や開発を行った人物に着目し、図書館の本などを使って調べるための情報を集める。	○図書館へ行き、地域の昔の様子を扱った本などから、新田開発に関わる主な情報を収集する。 ◆新田開発を行ったのは井沢弥惣兵衛という人物であり、新田開発を行うために見沼代用水が開削されたこと。	①図書館の本を使って見沼代用水の開発について調べる。 ②見沼代用水や、井沢弥惣兵衛について、地図や年表を使って調べる。 ③調べて、気づいたことや疑問に思ったことを、話し合う。	【知技】見沼新田を開いた人物は井沢弥惣兵衛であり、弥惣兵衛が見沼代用水をつくって新田に水を引き入れたことを理解している。(発)(ノ)
どうやって水を引いた？ p.136～137 【配時 2】	見沼代用水の流路に着目し、流路を定めた理由やその工夫を捉える。	○博物館へ行き、学芸員や学習支援員から話を聞いたり、展示物や資料などを見たりして、見沼代用水の流路がどのようにして決まったのかを調べる。 ◆見沼代用水は水量が安定した利根川から取水したこと。水を通す際に、土地の高低差を利用したり、施設や工事の工夫を行ったりしたこと。	①調べることを確かめて、博物館へ行く。 ②弥惣兵衛は、見沼代用水のコースをどのようにして決めたのかを調べる。 ③見沼新田に水を引くための、工夫について調べる。	【知技】見沼代用水は、水量が安定した利根川から水を引き入れることで流路が決まったことを理解している。(発)(ノ)
ふたてに分かれた用水路 p.138～139 【配時 2】	見沼新田が開かれた場所や地形に着目し、見沼代用水がふたてに分かれて流れている理由など、新田開発に関わる工夫を捉える。	○見沼新田付近の地形図を着色して新田や用水路の土地の高さを読み取り、土地の高さを利用した新田づくりを行った弥惣兵衛の工夫を調べる。 ◆田は、台地と台地に挟まれた低い土地に開かれたこと。それぞれの台地の縁に用水路を通して、両側の用水路から田へ水を引き入れやすくするための工夫を行ったこと。	①用水路がふたてに分かれて流れる場所の地形や土地の高さの違いを地図から読み取る。 ②二つの用水路に挟まれた土地の高さが、周りの土地より低いわけを考える。 ③用水路がふたてに分かれて流れるわけを調べる。	【知技】井沢弥惣兵衛は、沼の水を抜いた後の土地に新田をつくり、土地の高低差を利用して見沼代用水を通したり、新田に水を引いたりしたことを理解している。(発)(ノ)

どのようにして工事は行われた？ p.140～141 【配時 1】	工事が短期間で行われたことに着目し、工事に際して弥惣兵衛が行った工夫を捉える。	○想像図などから工事の様子を調べ、弥惣兵衛がどのようにして工事を短期間で完成させることができたのかを調べる。 ◆弥惣兵衛には短期間で長距離の用水路を工事することに伴う苦労があったこと。弥惣兵衛は、工期短縮のために様々な工夫を行ったこと。	①弥惣兵衛は、工事をどのような時期に行おうとしたのか、考える。 ②工事の進め方や使われた道具を調べる。 ③調べて分かったことをノートや付箋に書く。	【知技】距離が長い用水路の工事を短期間で完成させるために、弥惣兵衛は工事の時期や進め方を工夫したことを理解している。(発)(ノ)
調べてきたことを整理しよう p.142～143 【配時 1】	弥惣兵衛が行った工夫に着目して、調べてきたことを付箋に書き出し、見沼代用水の絵地図の上に貼って整理する。	○これまで調べてきた工夫や事実を書いた付箋を、見沼代用水の絵地図に貼付するなどして、どこで、どのような工夫や事実があったのかを確かめながら整理する。 ◆見沼代用水の工事では、各所で様々な工夫が行われたこと。	①これまでに書いた付箋を見て、調べて分かったことをふり返る。 ②見沼代用水の地図の上に、書いた付箋を貼って調べたことを整理する。 ③弥惣兵衛が行った、他の工夫について調べる。	【知技】見沼代用水や見沼新田の工事について調べたことを地図にまとめ、どこで、どのような工夫が行われたのかについて捉えている。(発)(ノ)
もっと知りたいな、井沢弥惣兵衛 p.144～145 【配時 1】	新田開発に際して生じた井沢弥惣兵衛の苦心や努力について考えたり、調べたりする。	○弥惣兵衛が工事を成功させるために行った工夫を調べたり、工事に伴う苦労や努力について考えたり話し合ったりする。 ◆見沼代用水の沿川には、工事の成功を願って弥惣兵衛が建てた施設があること。短期間で工事を完成させなくてはならないのは、翌春の農作業に間に合わせるためであったこと。	①弥惣兵衛の思いや、抱えた苦労を、想像して話し合う。 ②弥惣兵衛が抱えた思いや苦労について調べる。 ③工事の無事などを願って弥惣兵衛が建てたとされる施設を調べる。	【知技】弥惣兵衛は工事の成功へ強い願いをもち、苦心と努力を伴って工事を成し遂げたことを捉えている。(発)(ノ)
そして、ゆたかな土地に p.146～147 【配時 1】	新田開発によって、見沼新田周辺の地域の人々の暮らしはどのように変化したのかを捉える。	○新田完成後の米の生産量を調べたり、見沼通船堀の完成による地域経済の変化について関係者から話を聞いたりして調べる。 ◆見沼新田の完成による米の収量の増加と、見沼通船堀の完成による地域経済の活性化により、人々の暮らしは豊かになったこと。	①見沼代用水が完成し、地域がどのように変化したかを想像する。 ②見沼代用水が完成した後の地域の変化を調べる。 ③新田開発が終わったその後の、地域の様子を調べる。	【知技】新田開発や、その後の見沼通船堀の完成により、地域は発展し、人々の暮らしは豊かになったことを捉えている。(発)(ノ)
未来に残そう、みんなの見沼 p.148～149 【配時 1】	見沼新田や見沼代用水は現在も地域の人々に大切にされていることを捉える。	○見沼新田の今の土地利用図を見たり、そこで開催される行事などを調べたりして、現在の様子を知る。地域の人にとって、見沼新田や見沼代用水はどのような所なのかを考え合う。 ◆現在の見沼新田や見沼代用水は、いこいの場として地域の人々に大切にされていること。	①地図やパンフレットを使って、見沼新田や見沼代用の今の様子を調べる。 ②見沼新田や見沼代用水を生かす人々の取り組みを調べる。 ③地域の人々は、新田が開かれた場所や見沼代用水に、どのような思いをもっているかを考える。	【知技】新田が開かれた場所や見沼代用水は、今も地域の人々の大切な場所になっていることを理解している。(発)(ノ)
<まとめる> 昔と今を年表や地図でつなげよう p.150～151 【配時 1】	前に整理した見沼代用水の絵地図上に、その後調べたことを付箋に書いて追加して貼って絵地図をより充実したものにしたり、年表にまとめたりしながら、学習をまとめる。	○前に作成した絵地図に、その後調べた弥惣兵衛の苦心や工事の工夫、開発後の地域の様子、現在の様子などを付箋に書き足して貼付したり、年表にまとめたりして学習を整理する。 ◆見沼代用水の工事は弥惣兵衛によって様々な工夫が施され、完成したこと。新田開発で地域の人々の生活は豊かになり、今も見沼新田や見沼代用水は地域の人々に大切にされていること。	①見沼代用水の開削と新田開発について、さらに調べたことを年表や地図にまとめる。 ②整理した年表や地図を見て、学習問題について自分の考えをノートに書く。 ③新田開発を終えた弥惣兵衛の気持ちや、自分が弥惣兵衛に伝えたいことについて考え、話し合う。	【思判表】学習問題を確かめ、新田開発の成果や井沢弥惣兵衛の功績について考え、表現している。(発)(ノ) 【態】学習をふり返り、人々が協力して地域を開発したことについて考えたことを主体的に発表している。(発)(ノ)

<せんたく> 地域に学校を ひらく p.152～153	地域の課題や人々の願いに着目して、地域に学校を開いた小笠原東陽が、地域の教育発展に貢献したことを捉えることができる。	○地域で最初に開設された学校と、開設した人物について調べたことをノートや年表にまとめたり、それらをもとに、地域の人々の願い、学校の開設や運営に関わる苦労や努力について話し合ったりする。 ◆小笠原東陽は、地域の人々の願いにもとづいて学校を開設し、地域の教育発展に尽力したこと。また、多くの生徒を輩出し、学校のある地域は、その後県の教育の中心地になったこと。	①地域で初めて学校を開いた人物について調べる。 ②小笠原東陽は、どのような願いから学校をつくったのか、話し合う。 ③調べたことを年表にまとめる。	【態】地域で初めて学校を開いた小笠原東陽について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立て、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(行)(ノ) 【知技】小笠原東陽や耕余塾について、年表や資料を使って調べたことをノートなどに書いている。(発)(ノ) 【思判表】学習問題を確認、小笠原東陽が地域にもたらした功績について考え、表現している。(発)(ノ)
<せんたく> 地域の人々を 病気から救う p.154～155	地域の課題や人々の願いに着目して、地域の住民を病気から救った杉浦医師が、地域医療の発展に貢献したことを捉えることができる。	○資料館などへ行き、地域の人々を病気から救うことに尽力した杉浦医師親子の取り組みや経歴について調べたり、彼らの努力によって地域の人々の生活はどのように変わったかについて話し合ったりする。 ◆かつて地域の人々は原因不明の病気に苦しんでいたこと。その病気から人々を守るために杉浦医師親子が様々な取り組みを行ったこと。	①資料館へ行き、地域の人々を病気から救った人物について調べる。 ②病気から人々を救うための杉浦健造と三郎の取り組みを調べる。 ③病気をなくす取り組みは、どのようにして進められたかを調べる。	【態】地域の人々を病気から救った杉浦医師親子について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立て、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(ノ) 【知技】杉浦親子について、年表や資料を使って調べたことをノートなどに書いている。(発)(ノ) 【思判表】学習問題を確認、杉浦親子が地域にもたらした功績について考え、表現している。(発)(ノ)
<せんたく> 沖縄の文化の よさを伝える p.156～157	地域の課題や人々の願いに着目して、沖縄の文化のよさを広めた伊波普猷が、地域固有の文化の保護や普及に貢献したことを捉えることができる。	○昔から沖縄に伝えられる文化を保護、伝承するために伊波普猷はどのような努力をしてきたのかを調べたり、伊波普猷によって沖縄の人々は自分たちの文化をどのように捉えるようになったかを考えたりする。 ◆沖縄の文化のよさが人々に認められなかった時代があったこと。伊波普猷の尽力によって、沖縄の文化のよさが広く認められるようになったこと。	①沖縄の文化のよさを伝えてきた人物を調べる。 ②沖縄の文化のよさを伝えるために、伊波普猷はどのような努力をしたかを調べる。 ③伊波普猷の取り組みで、沖縄の人々の考えはどのように変わったか考える。	【態】地域の文化のよさを伝えた伊波普猷について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立て、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(ノ) 【知技】伊波普猷について、年表や資料を使って調べたことをノートなどに書いている。(発)(ノ) 【思判表】学習問題を確認、伊波普猷が地域にもたらした功績について考え、表現している。(発)(ノ)
<せんたく> 北海道で、い ねを实らせる p.158～159	地域の課題や人々の願いに着目して、北海道での稲作を実現した中山久蔵が、地域の産業発展に貢献したことを捉えることができる。	○北海道での稲作を可能にした中山久蔵の略歴や取り組みを年表や資料などで具体的に調べ、久蔵の功績が人々の生活に与えた影響について話し合う。 ◆150 年程前の北海道は稲作ができなかったこと。中山久蔵が努力して寒冷地に強い稲の品種を作り出したこと。久蔵の工夫や努力によって北海道での米づくりが可能となり、米の一大産地になっていること。	①北海道での米づくりを、広めた人物を調べる。 ②中山久蔵が行ったくふうや努力について調べる。 ③久蔵のはたらきによって、地域はどのように変わったかを調べる。	【態】北海道での稲作を実現した中山久蔵について調べるための学習問題をつくり、学習計画を立て、主体的に問いを追究しようとしている。(発)(ノ) 【知技】中山久蔵について、年表や資料を使って調べたことをノートなどに書いている。(発)(ノ) 【思判表】学習問題を確認、中山久蔵が地域にもたらした功績について考え、表現している。(発)(ノ)

大単元 6	わたしたちの県のまちづくり	配当時間 19 時間	教科書 4 p. 160～211
-------	---------------	------------	---------------------

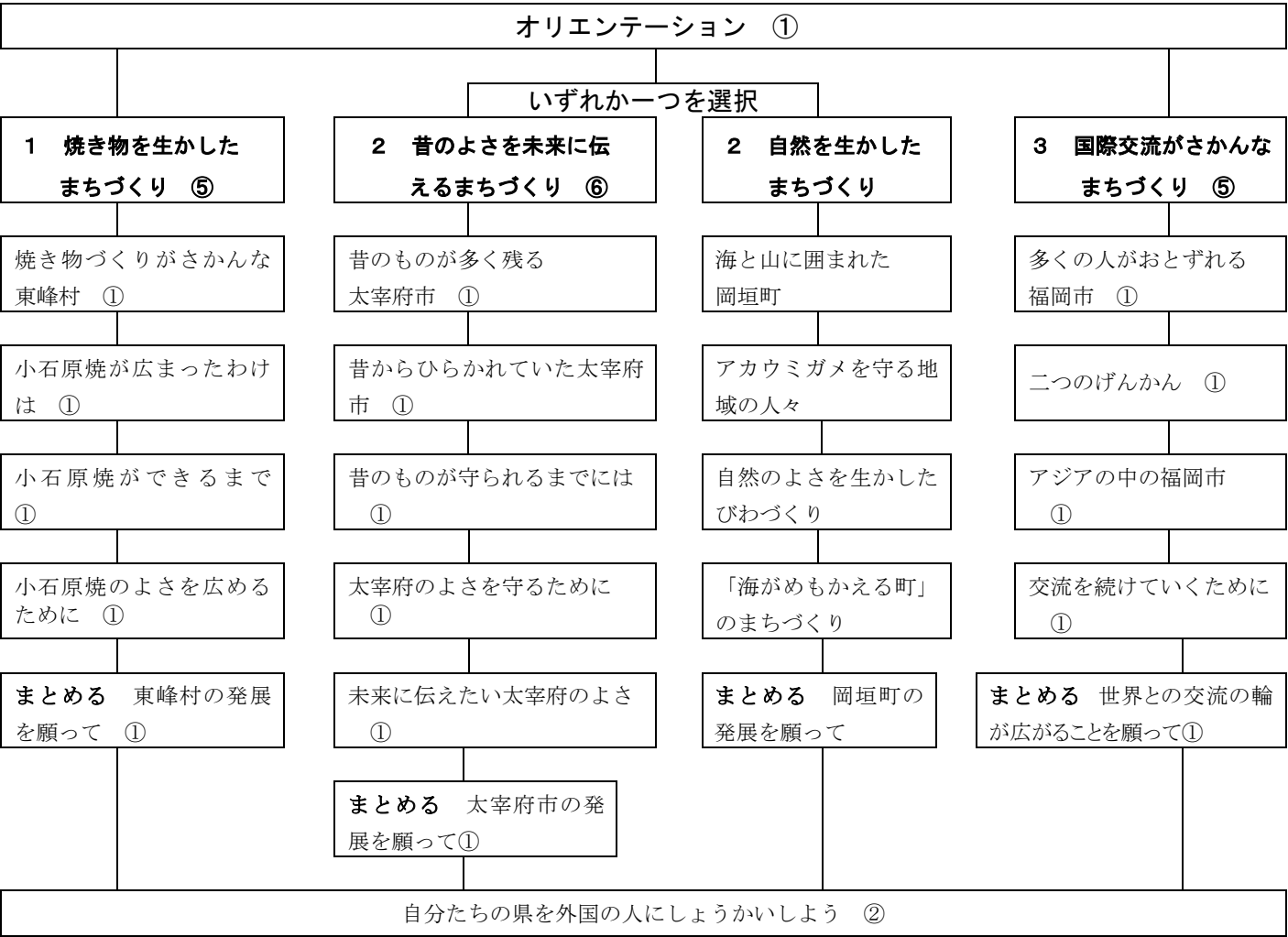
目 標

- 自分たちの県内の特色ある地域について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
●自分たちの県内の特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、その地域の特色を考え、文章で記述したり、白
- 地図などにまとめたことをもとに説明したりする力を養う。
●自分たちの県内の特色ある地域について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 ・地図帳や各種資料で調べ白地図などにまとめている。	・特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	・県内の特色ある地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

大単元の構成



○の中の数字は、配当時数

小单元 1	焼き物を生かしたまちづくり	配当時間 5 時間	教科書 4 p. 160～171
-------	---------------	-----------	---------------------

目 標

- 伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、その地域の特色を考え、文章で記述したり、白地図などにまとめたことをもとに説明したり話し合ったりする力を養う。
- 伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 ・伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域について、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめている。	・伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	・伝統的な技術を生かした地場産業が盛んな地域について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

大単元名：6 わたしたちの県のまちづくり 【配当1時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
オリエンテーション p.160～161 【配時1】	特産物や観光で知られる県内の特色ある地域に着目し、それらを観光パンフレットやガイドブックなどで調べたり、地図で位置を確認したりする。	○県内から、地場産業が盛んな地域、歴史景観（または自然環境）に特色ある地域、国際交流が盛んな地域を調べる対象として選び出す。 ◆県内には、様々な特色をもった地域があること。	①県の地図を見ながら、知っている場所を発表する。 ②県内の特産物や観光で知られる地域をパンフレットなどで調べる。 ③調べたことをもとに、感じたことや、関心をもったことを話し合う。	【知技】県内には、自分たちが住んでいる市町村とは異なる、特産物や観光などで知られる様々な地域があることを捉えている。(発)(ノ)

小単元名：1 焼き物を生かしたまちづくり 【配当5時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
焼き物づくりがさかんな東峰村 p.162～163 【配時1】	民陶むら祭の写真などから、東峰村は焼き物づくりが盛んであることに着目し、東峰村の焼き物づくりについて調べたいことを明らかにして学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○民陶むら祭の様子の写真や東峰村の地図などをもとに、東峰村で小石原焼が盛んに作られているわけについて調べる学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆東峰村は焼き物づくりが盛んであり、そこで作られる小石原焼を買うために、遠くから多くの客がやって来ること。	①東峰村の位置や、土地の様子を調べる。 ②東峰村はどのような所か、地域の人から話を聞く。 ③疑問を出し合って、学習問題をつくる。	【思判表】民陶むら祭の写真などを見て、東峰村の焼き物づくりについて問いを見出し、学習問題として表現している。 (発)(ノ) 【態】東峰村で焼き物づくりが行われているわけについて予想を話し合い、見通しをもって主体的に追究しようとしている。(発)(行)

学習問題：東峰村では、なぜ、焼き物づくりがさかんなのだろう。

小石原焼が広まったわけは p.164～165 【配時1】	小石原焼の特徴に着目して、小石原焼の始まりや歴史を調べる。	○小石原焼の実物を見て特徴を知り、発祥から現在までの歩みと、広く知られるようになった理由を調べる。 ◆小石原焼は中国や朝鮮の焼き物を起源とし、約350年の歴史があること。東峰村で開かれる民陶むら祭などを通してより広く知られるようになり、国の伝統的工芸品にも指定されたこと。	①小石原焼の始まりについて、調べる。 ②小石原焼が、広く知られるようになったわけを調べる。 ③調べてわかったことをノートに書く。	【知技】小石原焼の実物を見たり、発祥から現在までの歩みを調べたりして焼き物の特徴をつかみ、人々に広く知られるようになった経緯について捉えている。(発)(ノ)
小石原焼ができるまで p.166～167 【配時1】	小石原焼の製作工程と技法、材料、作者の思いに着目して、焼き物づくりの工夫や努力について調べる。	○窯元を見学し、小石原焼の作業工程と使われる材料、作者の努力や工夫について調べる。 ◆小石原焼は地域で採取した材料や燃料を使い、伝統的な技法により作られていることや、現代の生活に合わせた新しい焼き物づくりにも挑戦していること。	①小石原焼の材料と、小石原焼ができるまでの作業の様子を調べる。 ②焼き物づくりのくふうについて調べる。 ③二つの窯元を調べて、考えたことを話し合う。	【知技】小石原焼は、東峰村でとれる材料を使って作られていることや、現代の生活に合わせた焼き物づくりの工夫も行われていることを理解している。(発)(ノ)
小石原焼のよさを広めるために p.168～169 【配時1】	焼き物づくりをさらに盛んにしたいという東峰村の人々の思いに着目して、焼き物を生かしたまちづくりの取り組みや人々の努力や工夫を調べる。	○小石原焼をさらに広めていくための東峰村の人々の取り組みを調べ、それぞれが協力し合っていることを捉える。 ◆東峰村の人々は地域の発展を願って、小石原焼をさらに広める努力をしていること。窯元は、客の求めに応じた様々な種類の焼き物を作って小石原焼を発展させてきたこと。	①窯元以外の人の、小石原焼に対する思いや願いを考える。 ②小石原焼を広めるための取り組みについて、東峰村の様々な人から話を聞く。 ③小石原焼を広めるためのそれぞれの取り組みを整理する。	【知技】東峰村の様々な立場の人が、焼き物づくりをさらに盛んにしていくためにそれぞれの立場で取り組んでいることを捉えている。(発)(ノ)

＜まとめる＞ 東峰村の発展を願って p.170～171 【配時1】	焼き物づくりが盛んな東峰村のまちづくりをふり返り、学習問題について自分の考えをまとめる。	○東峰村で小石原焼の生産が盛んなわけをふり返って、地理的条件、歴史的背景、人々の協力などに分類・整理し、学習問題について自分の考えをノートに書く。 ◆焼き物の原材料が産出することや知られるようになる歴史的経緯、焼き物による地域振興をはかる人々の協力などによって東峰村では焼き物づくりが盛んなこと。	①東峰村で小石原焼の生産が盛んなわけを話し合う。 ②話し合ったことを、それぞれ分類・整理する。 ③分類・整理したものを見ながら、学習問題について考えたことをノートに書く。	【思判表】学習問題を確かめ、東峰村で焼き物づくりが盛んな理由について考えたことを表現している。(発)(ノ) 【態】学習をふり返り、産業を活用したまちづくりについて考えたことを主体的に発表している。(発)(ノ)
--	---	---	--	---

小单元 2	昔のよさを未来に伝えるまちづくり	配当時間 6 時間	教科書 4 p. 176～187
-------	------------------	-----------	---------------------

目 標

- 県内の伝統的な文化を保護・活用している地域について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 県内の伝統的な文化を保護・活用している地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、その地域の特色を考え、文章で記述したり、白地図などにまとめたことをもとに説明したり話し合ったりする力を養う。
- 伝統的な文化をまちづくりにどのように生かしているかについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、地域社会のよりよい発展を考えていこうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 伝統的な文化を保護・活用している地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 ・ 伝統的な文化を保護・活用している地域について、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめている。	・ 伝統的な文化を保護・活用している地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	・ 伝統的な文化を保護・活用している地域について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名：2 昔のよさを未来に伝えるまちづくり 【配当 6 時間】

※「昔のよさを未来に伝えるまちづくり」か、p. 188～197 の内容のいずれかを選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
昔のものが多く残る太宰府市 p. 176～177 【配時 1】	太宰府市に史跡や文化財が多く残されていることに着目して、太宰府市の様子について調べるための学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○太宰府市の様子を地図や写真を使って調べ、史跡や文化財が多いことを捉え、それを手がかりに太宰府市について調べる学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆太宰府市には、史跡や歴史のある祭り、仏像などの文化財が数多く残されていること。	①太宰府市の様子を、地図や写真で調べる。 ②太宰府市にある昔から残るものについて調べる。 ③調べて疑問に思ったことをもとに学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】太宰府市に昔のものが多く残るわけについて問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】太宰府市に昔のものが多く残るわけについて予想を話し合い、見通しをもち主体的に追究しようとしている。(発)(行)
学習問題：太宰府市には、なぜ、昔のものが多く残されているのだろう。				
昔からひらかれていた太宰府市 p. 178～179 【配時 1】	太宰府市にある代表的な史跡や文化財に着目して、太宰府市の昔の様子を捉え、歴史的にどのような特色をもった地域であるのかを捉える。	○太宰府市の代表的な史跡や文化財を調べて、太宰府市がもつ歴史的な特色について考える。 ◆古代の太宰府には大宰府政庁という国の重要な役所があり、大陸との交流が盛んであったこと。また、太宰府天満宮は菅原道真と深い関わりがあること。	①太宰府市を代表する史跡を調べる。 ②昔の太宰府市は、どのような所だったのかを捉える。 ③調べたことをもとに、太宰府市の特色を考える。	【知技】太宰府は古くからひらかれた、日本の昔の姿を今に伝えるまちであることを捉えている。(発)(ノ)
昔のものが守られるまでには p. 180～181 【配時 1】	太宰府市に史跡や文化財が多く残されている理由に着目し、それらの保存をめぐる出来事や、人々の取り組みがあったことを捉える。	○太宰府市に史跡や文化財が多く残されているわけを調べ、かつて地域の人々の史跡の保存に対する意識の変化があったことを捉える。 ◆太宰府市はかつて史跡の開発か保存かで住民の考えが分かれたが、その後、史跡や文化財の保存の大切さが人々に理解されるようになったこと。	①太宰府市に史跡や文化財が多く残されているわけを調べる。 ②史跡や文化財の保存をめぐって、太宰府市でどのようなできごとがあったのか、調べる。 ③史跡や文化財の保存に対する太宰府市の人々の意識がどのように変わったかを話し合う。	【知技】太宰府市に史跡や文化財が多く残されるようになるまでに、史跡の保存に対する地域の人々の思いに変化があったことを理解している。(発)(ノ)
太宰府のよさを守るために p. 182～183 【配時 1】	太宰府のよさを守る取り組みに着目して、様々な立場の人々が太宰府のよさを協力して守ろうとしていることを捉える。	○太宰府のよさを守る活動を調べ、地域の人々はどのようなまちづくりを目指しているのかを考える。 ◆太宰府市は昔から受け継いだよさを守りながらまちづくりを進めており、そこにはまちづくりに取り組む人々の思いや願いがあること。	①太宰府市のよさを守る地域の人々の取り組みを調べる。 ②太宰府市のよさを守るための市の取り組みを調べる。 ③調べたことをもとに、太宰府のよさを、人々はどのように守ってきたかを考える。	【知技】太宰府のよさはどのようにして守られてきたのかを、まちづくりに関わる人々の取り組みを通して理解している。(発)(ノ)

未来に伝えたい太宰府のよさ p. 184～185 【配時 1】	太宰府のよさを、さらに広める取り組みに着目し、まちづくりに対する人々の思いや願いについて捉える。	○太宰府のよさを、より広く伝えるための取り組みを調べたり、活動に関わる人から活動への思いや願いを聞いたりする。 ◆太宰府のよさをさらに広めるために、新たな取り組みを進めている人がいること。	①外国から来た観光客に、地域のよさを伝える取り組みを調べる。 ②地域にある様々なよさを、より多くの人に伝える取り組みを調べる。 ③取り組みに関わる人々がどのような思いや願いをもって活動しているかを考える。	【知技】太宰府のよさをさらに広めていくために取り組みを進めている人々の思いや願いを捉えている。(発)(ノ)
＜まとめる＞ 太宰府市の発展を願って p. 186～187 【配時 1】	太宰府市の歴史的な景観を保護・活用する取り組みと、取り組みに関わる人々の思いや願いをふり返り、学習問題について自分の考えをまとめる。	○太宰府市の歴史的な景観を保護・活用する取り組みについて、調べてきた人をカードに書いて総覧し、それぞれの取り組みをふり返りながら、学習問題について考えをまとめたり、学習したことをもとに、人に紹介したい太宰府市のよさを発表したりする。 ◆太宰府市の人々は協力して、史跡や文化財が多く残る太宰府のよさをまちづくりに生かそうとしていること。	①これまで調べた人々をカードに書き出す。 ②カードに書いた人々の活動をふり返り、学習問題について自分の考えをまとめる。 ③人に紹介したい太宰府市のよさを考え、発表する。	【思判表】学習問題を確認め、太宰府市に昔のものが多く残る理由について考えたことを表現している。(発)(ノ) 【態】学習をふり返り、昔のよさを守り伝えるまちづくりについて考えたことを主体的に発表している。(発)(ノ)

小単元 2	せんたく 自然を生かしたまちづくり	配当時間 6 時間	教科書 4 p. 188～197
-------	-------------------	-----------	---------------------

目 標

- 県内の自然環境を保護・活用している地域について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 県内の自然環境を保護・活用している地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、その地域の特色を考え、文章で記述したり、白地図などにまとめたことをもとに説明したり話し合ったりする力を養う。
- 自然環境をまちづくりにどのように生かしているかについて、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、地域社会のよりよい発展を考えていこうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 自然環境を保護・活用している地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 ・ 自然環境を保護・活用している地域について、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめている。	・ 自然環境を保護・活用している地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	・ 自然環境を保護・活用している地域について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名：せんたく 2 自然を生かしたまちづくり

※「昔のよさを未来に伝えるまちづくり」(p.176～187) か、p.188～197 の内容のいずれかを選択して学習

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
海と山にかこまれた岡垣町 p.188～189 【配時1】	地図や写真を見て岡垣町の自然環境に着目し、岡垣町について知りたいことを明らかにして学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○岡垣町の様子について地図や写真などを使って調べ、気づいたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆県内には、自然が豊かな地域があること。福岡県岡垣町は、きれいな海水浴場や多数の果樹園があり、自然環境に恵まれた地域であること。	①県の中の岡垣町の位置や土地の様子、土地利用を地図や写真で調べる。 ②岡垣町はどのような所なのか、町役場の人に話を聞くなどして調べる。 ③疑問に思ったことや調べたいことをもとに、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】アカウミガメが来たり、びわづくりが盛んだったりする岡垣町について問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】岡垣町にアカウミガメが来たり、町でびわづくりが盛んだったりするわけについて予想を話し合い、見通しをもって主体的に追究しようとしている。(発)(行)
学習問題：岡垣町は、なぜ、アカウミガメがやってきたり、びわづくりがさかんだったりするのだろう。				
アカウミガメを守る地域の人々 p.190～191 【配時1】	岡垣町にアカウミガメがやってくることに着目し、アカウミガメの保護に関わる人々の取り組みについて捉える。	○写真やグラフから岡垣町の自然環境を読み取ったり、地域の人から話を聞いたりして、岡垣町にアカウミガメが産卵に訪れるわけを調べる。 ◆岡垣町は温暖で幅の広い砂浜やきれいな海があることに加え、地域の人々は海岸清掃活動など、アカウミガメが産卵に訪れる環境づくりを行っていること。	①アカウミガメは、どのような場所で産卵するかを調べる。 ②アカウミガメを守る人々の取り組みを調べる。 ③調べてわかったことをノートにまとめる。	【知技】岡垣町にはアカウミガメが産卵にやってくるような温暖な気候やきれいな海、幅の広い砂浜があり、地域の人々もアカウミガメが産卵しやすい環境づくりに取り組んでいることを理解している。(発)(ノ)
自然のよさを生かしたびわづくり p.192～193 【配時1】	岡垣町でびわづくりが盛んであることに着目し、びわづくりに関わる人々の取り組みについて捉える。	○岡垣町でびわづくりが盛んなわけを地形図や気候のグラフ等で調べたり、農家から話を聞いたりして調べる。 ◆岡垣町の地形や気候がびわづくりに適していること。びわづくりを支えるために、地域の農家は努力や工夫をしていること。	①岡垣町の自然環境とびわづくりとの関係を調べる。 ②びわの生産量と畑の面積の変化を調べる。 ③調べて分かったことをノートに書く。	【知技】岡垣町の気候や地形、良質な地下水があるといった自然環境は、びわづくりに適しており、農家や町はびわづくりを未来に伝えるために協力し合っていることを理解している。(発)(ノ)
「海がめもかえる町」のまちづくり p.194～195 【配時1】	地域の人々の岡垣町に対する思いや願いに着目し、自然環境を生かした人々のまちづくりへの取り組みを捉える。	○岡垣町の自然環境を守るための取り組みを調べ、人々の思いや願いについて考える。 ◆岡垣町には豊かな自然環境を守ろうと努力している人や、豊かな自然環境を地域の魅力として、活用している人がいること。	①岡垣町で暮らす人々の思いや願いについて考える。 ②岡垣町で暮らす人々と、自然環境とのかかわりについて調べる。 ③岡垣町のキャッチコピーにこめられた、人々の思いや願いについて考える。	【知技】岡垣町の人々は、自然環境がゆたかな岡垣町の発展を願って、それぞれの立場で自分たちにできることに取り組んでいることを捉えている。(発)(ノ)
<まとめる> 岡垣町の発展を願って p.196～197 【配時2】	岡垣町の自然環境を生かしたまちづくりをふり返り、学習問題について自分の考えをまとめる。	○岡垣町の自然環境の特色と、自然環境を保護・活用する人々の取り組みを表に整理し、岡垣町のよさを付箋に書いて地図上に貼り、調べてきたことをまとめる。そして学習問題についての自分の考えをノートに書く。 ◆岡垣町の人々は、アカウミガメが訪れる地域の自然を保護したり、地形や気候をびわづくりに活用したりして、自然環境を町づくりに生かそうとしていること。	①調べてきたことをふり返って、話し合う。 ②話し合ったことを表に整理する。 ③整理した表を見ながら、岡垣町の自然環境の特色や人々の取り組みのよさを付箋に書き、地図の上に貼りつけていく。	【思判表】学習問題を確かめ、岡垣町にアカウミガメがやってきたり、町でびわづくりが盛んだったりする理由について考えたことを表現している。(発)(ノ) 【態】学習をふり返り、岡垣町の自然環境を生かしたまちづくりについて考えたことを主体的に発表している。(発)(ノ)

小単元 3	国際交流がさかなまちづくり	配当時間 5 時間	教科書 4 p. 200～211
-------	---------------	-----------	---------------------

目 標

- 県内の国際交流が盛んな地域について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 県内の国際交流が盛んな地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして、その地域の特色を考え、文章で記述したり、白地図などにまとめたことをもとに説明したり話し合ったりする力を養う。
- 国際交流が盛んな理由について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、地域社会のよりよい発展を考えていこうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 国際交流に取り組んでいる地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。 ・ 国際交流に取り組んでいる地域について、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめている。	・ 国際交流に取り組んでいる地域の位置や人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現している。	・ 国際交流に取り組んでいる地域について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

小単元名：3 国際交流がさかんなまちづくり 【配当 5 時間】

【態】＝主体的に学習に取り組む態度、【知技】＝知識・技能、【思判表】＝思考・判断・表現
(発)＝発言・発表、(行)＝行動観察、(ノ)＝ノート・作品、(テ)＝テスト

ページ	本時のねらい	○主な学習活動／◆学習内容	本時の学習活動	評価規準/評価方法
多くの人がおとずれる福岡市 p. 200～201 【配時 1】	福岡市には国際大会などで多くの人が訪れることに着目して、調べたいことを明らかにし、学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。	○福岡市で開かれるスポーツの国際大会や国際会議などを調べ、福岡市に外国の人が多数訪れる理由を調べるための学習問題をつくり、学習計画を立てる。 ◆福岡市はスポーツの国際大会や国際会議が多数開かれていること。そうした国際大会を開くことができる施設があること。	①外国の人が参加するもよおしは、県内のどこで、行われるかを調べる。 ②外国の人は、どのような目的で、福岡市をおとずれるのかを調べる。 ③知りたいことを話し合って学習問題をつくり、学習計画を立てる。	【思判表】多くの外国の人が訪れる福岡市の国際交流について問いを見出し、学習問題として表現している。(発)(ノ) 【態】福岡市の国際交流について予想を話し合い、見通しをもって主体的に追究しようとしている。(発)(行)
学習問題：福岡市では、なぜ国際交流がさかんなのだろう。				
二つのげんかん p. 202～203 【配時 1】	福岡空港や博多港から福岡市にやってくる外国の人の出身国や人数に着目して、どの国や地域との結びつきが強いのかを捉える。	○福岡市と空路や航路でつながる国や、入国者の出身国や人数を調べ、福岡市の位置から結びつきの特色について考える。 ◆日本の西にある福岡市は、距離的に近いアジアの国々を中心に空路や航路でつながっており、中国や韓国を中心にアジアからたくさんの人々が訪れていること。	①外国の人が福岡市に来る方法を考える。 ②福岡空港と博多港を使って外国から来る人の数を調べる。 ③飛行機や船で結ばれる国や都市の位置を地図で調べる。	【知技】福岡市は、福岡空港や博多港を通じて、多くの国々と結ばれており、特にアジアの国々から福岡市にやってくる人が多いことを理解している。(発)(ノ)
アジアの中の福岡市 p. 204～205 【配時 1】	国際交流事業や、姉妹都市(友好都市)との交流に着目して、福岡市の国際交流の様子を捉える。	○福岡市の国際交流事業や姉妹都市(友好都市)との交流について調べ、特にアジアの国々との交流が盛んな理由について考える。 ◆福岡市はアジアの人々との交流事業や8つの姉妹都市(友好都市)との交流を行っていること。各国には国旗があり、それぞれを尊重しなければならないこと。	①市が取り組む外国との交流について調べる。 ②市が姉妹都市の関係を結んでいる都市の位置を地図で確かめる。 ③姉妹都市との交流について、調べたことを発表する。	【知技】福岡市は、中国や韓国をはじめとするアジアの国々との交流が盛んであるほか、姉妹都市や友好都市の関係を結んだ都市との交流も行っていることを理解している。(発)(ノ)
交流を続けていくために p. 206～207 【配時 1】	福岡市の人々の国際交流の様子に着目して、外国の人々との交流をより深めていくために大切なことを捉える。	○子どもたちの国際交流や外国の人との交流会などの取り組みを調べ、異文化理解を進めながら外国の人との交流をさらに深めていくために大切なことについて考える。 ◆外国の人は自分たちと文化や生活習慣に違いがあり、それを踏まえてお互いに理解を深めていくことが国際交流には大切なこと。	①外国から来た人と、どのような交流が行われているのか、さらに調べる。 ②外国から来た人が、生活する上でどのようなことを問題に感じているかを話し合おう。 ③外国から来た人と、よりよい交流をしていくための取り組みについて調べる。	【知技】国際交流を深めていくためには、お互いの異なる文化や生活習慣についてわかり合うことが大切であることを理解している。(発)(ノ)
<まとめる> 世界との交流の輪が広がることを願って p. 208～209 【配時 1】	福岡市の国際交流について調べたことをふり振り返り、学習問題について自分の考えをまとめる。	○福岡市で国際交流が盛んなわけを話し合い、調べた結果を図表などにまとめて、これからのまちづくりや自分たちの取り組みについて考える。 ◆福岡市はアジアの国々と地理的位置が近く、昔から交流があったことに加え、国際交流を支える大型の施設や催し、交流を深めようとする人々の取り組みによって、国際交流が盛んになったこと。	①福岡市で国際交流が盛んになった背景について話し合う。 ②話し合ったことを、グループ分けして整理する。 ③福岡市で国際交流がさらに盛んになるために大切なことについて考える。	【思判表】学習問題を確かめ、福岡市で国際交流が盛んな理由について考えたことを表現している。(発)(ノ) 【態】学習をふり振り返り、国際交流が盛んなまちづくりについて考えたことを主体的に発表している。(発)(ノ)

自分たちの県を外国の人にしようかいしよう p. 210～211 【配時 2】	自分の県についてわかりやすく伝える工夫をしながら白地図や文章などに整理し、県の様子と特色を紹介するガイドマップをつくる。	○自分たちの県を紹介するガイドマップをつくるために、自分たちの県の地形・産業・交通や、特色ある地域のまちづくりをふり返りながら、他の児童と話し合い、ガイドマップで扱う内容を検討する。 ◆自分たちの県には、外国の人や他地域の人に紹介したい場所や食べ物、史跡や文化財など、様々なものがあること。	①自分たちの県の特色を振り返り、ガイドマップの構想を話し合う。 ②ガイドマップの作成に必要な資料を集めたり、紹介文を書いたりしながら、わかりやすく伝えるための工夫について考え合う。 ③自分たちの県を紹介するガイドマップを各自で作って見せ合い、相互に評価を行う。	【態】自分たちの県について調べてきたことを積極的にふり返ったり、これまでに行った学習のまとめ方をガイドマップづくりに生かそうとしたりしている。(発)(行) 【思判表】学習したことをもとに、外国の人に自分たちの県について紹介したいことを選び、ガイドマップにわかりやすく表現している。(発)(ノ)
---	---	--	---	---